

新 章 始 動

歩きたらそう、
今ふたたびここから



第143周年
甲府中学・甲府一高同窓会

令和5年(2023)5月20日(土) アピオ甲府



社会福祉法人 四つ葉福祉会
クローバー保育園
病児・病後児保育室「よつば」

平成2年卒 長谷部集

〒400-0111 山梨県甲斐市竜王新町2117-3 電話 055-276-9680

歩きだそう、
今ふたたびここから

新章始動

第143周年

甲府中学・甲府一高同窓会

目次

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌	2
ご挨拶 甲府中学・甲府一高同窓会会長	4
甲府第一高等学校校長	5
第143周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長	6
恩師寄稿	7
平成2年卒業生クラス写真	16
特集1 甲府一高とヴァンフォーレ甲府	19
特集2 山梨大学 新学長 中村和彦先生(昭和53年卒)インタビュー	34
広告目次	40
広告(広告ページ1〜68)	
第143周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者御芳名	111
甲府一高同窓会ホームページ パナー広告協賛一覧	112
第143周年甲府中学・甲府一高同窓会学年協賛者氏名	113
第143周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織	114
編集後記	114

表紙・八巻 晴希(美術部3年)
題字・伊藤 綾香(書道部3年)

甲府中学校校歌

- 一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生れしことのうれしさよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなかるべし
- 二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎮めと聳えたり
- 三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民舉りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

- 一、甲斐の國 み中に建ちて
古へゆ 雄心つたへ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この學びやに
- 二、日に新た また日に新た
いや高き のぞみをもちて
眞なる 理きはめ
勵みなむ 若人われら
- 三、聳えたつ 芙蓉のたかね
清きかな 甲斐の山川
もるとともに 玉と磨きて
贊くべし 天地の化育



起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まきに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしほり

敵のかぶとを 射落さん

三、見よ穹天の 雲は垂れ

覇権を握るは今なるぞ

蚊竜の意気胸に秘め

いざや起て起て わが選手

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歓楽に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が

おみくじ引いて

申すには

いつも一高

勝ち勝ち

勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち



御挨拶

甲府中学・甲府一高同窓会

会長 丹沢 良治

令和5年度、甲府中学、甲府一高の創立143周年の同窓会総会並びに懇親会に御出席いただき、誠に有難うございます。

コロナ禍の3年間、又ロシアのウクライナ侵攻により近年にない厳しい経済状況の中で同窓会に対し同窓生の多くの皆様に心温まる御協力、御支援を賜り、心より感謝申し上げます。コロナウイルス感染症も4年目に入り、世界の多くの国ではウィズコロナの生活となり、人の動きもコロナ前の状況に戻りつつあります。日本も季節性インフルエンザと同等の「5類」に引き下げられ、少し心配ですが通常の社会生活になってきました。

同窓会活動はコロナに翻弄されてきました。会員相互の最大の親睦イベントの同窓会総会も、懇親会のない母校一高での静かな総会になりました。第140回の定期総会を担当した乙黒洋実行委員長を始め当番幹事の皆さんも、第142回同窓会総会を担当した小林康洋実行委員長を始め当番幹事の皆さんも、懇親会のできる総会にしようと思念に頑張ってくれましたが、コロナ感染拡大により懇親会の中止を余儀なくされ、断腸の思いだったとおもっております。

今年の第143回定期総会は「新章始動」歩きだそう、今ふたたび「ここから」をテーマに、長谷部集実行委員長のもと、平成2年卒業と平成19年卒の当番幹事の皆さんが、持続可能な同窓会総会をコロナ禍を契機に新たな型で開催を提案してくれました。是非今年の当番幹事にご協力をお願い申し上げます。

令和4年度に開催する事ができた同窓生相互の親睦活動は、境川カントリークラブでの第11回卒業年度別対抗親睦ゴルフ大会が唯一の行事となりました。各学年から140名を超えるエントリーをいただきましたが、当日は台風が接近し荒れた天気となり遠路参加の皆さんのキャンセルが発生しましたが、100名を超える仲間の参加を得て、無事開催する事ができました。優勝は昭和57年卒、準優勝は昭和56年卒、3位は昭和41年卒となりました。多くの同

窓生から賞品を協賛していただきました。

母校教育への支援、協力では、10月1、2日と男子は小諸、女子は高根から小海までを目指す第94回の強行遠足が、4年振りで実施されました。日中の気温上昇や疲れと戦い、足を引きずりながら頑張る姿は、一高時代を思いだし胸が熱くなりました。

昨年、4月に着任した安達徹校長も先生方と共に生徒一人一人の体調に気を配り全校生徒を見守り、PTAの皆さんや、同窓生など多くの方々の協力により、伝統の強行遠足が生徒の心に残る、良い思い出になったのではと感じています。

創立140周年記念事業協賛会会長の金丸信吾23代一高同窓会長は、令和4年3月にお亡くなりになりました。故金丸信吾氏は、全卒業生の皆様に対し協賛金の御協力をお願いし、厳しい経済状況の中で目標額を超える金額を、母校支援の為に募っていただきました。

又、一高で応援団吹奏楽部に所属していた関係もあり、特に吹奏楽部には思い入れがあり、毎年新しい楽器を寄贈してくれていました。更に、協賛金や奨学金への多額の寄付を初め、アカペラ部、野球部にも支援をしてくれていました。母校愛の強かった故人は、「文化の香りのする懐の深い進学校」の為に一高の応援団長を務めてくれた先輩でした。長い間、本当にありがとうございました。

甲府一高も少子化の中で、団塊の世代をピークに生徒数も激減してきています。今年の当番幹事の同窓生も、少ない人数で智恵を出し頑張っています。今後は、同窓会総会の運営も変化していかねばならない時代になってきています。4年振りに懇親会ができる同窓会総会が、楽しい総会になればと願っています。



進化する一高

甲府第一高等学校

校長 安達 徹

このたび、第143周年甲府中学・甲府第一高等学校同窓会総会が、「新章始動」歩きだそう、今ふたたび「ここから」のテーマのもと、盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。同窓会の皆様方には、日頃より母校甲府一高の教育活動への御理解と物心両面にわたる御支援を賜り、誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

コロナ禍での生活も4年目に入りましたが、学校では引き続き最大限の感染防止対策を講じながら、できる限り通常に近い形での教育活動の実施に努めているところ です。

なかでも、例年多くの同窓生の皆様のご協力をいただいております。強行遠足につきましても、昨年度は4年ぶりに、男子が学校から小諸までの104km、女子が高根から小海までの41.6kmの本来のコースで実施いたしました。男子コースの佐久穂から小諸までの6カ所の検印所を中心に、総勢300人近くの間窓生が、夜を徹して検印や給水、誘導、医療などの業務にあたってくださいました。この行事の大変さと大切さを知っていらっしゃる同窓生だからこそ、必死に自らの限界に挑戦して掛けそうになっている生徒たちを、心に響く言葉で、優しく力強く後押ししてくださいました。

「完走者である父から強行遠足の何たるかを散々聞かされ、アドバイスを受け準備万端で臨んだ。実際のそれは想像をはるかに超えていた。完走して手に入れたのは、りんごことプライド。104キロ歩いたにしては随分だなど思ったけれど、清々しくもあった。(一年男子)」(第94回強行遠足感想文より)

完走したか否かに関わらず、生徒たちは強行遠足を通して、それぞれに自己と向き合っており、間違いなく一歩前に進み、少し大人になりました。そして生涯にわたって、苦しいときに自分を支えてくれる宝物を得たのだらうと思います。

部活動では、昨年度は体育局・文化局ともに大きな成果をあげた一年でした。5月の県高校総体では男女ともに総合6位入賞と、近年では特筆すべき成績を収め、山岳・アーチェリーがインターハイに、空手・陸上・テニス・アーチェリー

が関東大会に出場しました。野球部も私学優勢の中で、春の県大会ではベスト8に入りました。さらには3月には空手部が全国高校選抜大会団体組手3人制において3位に入賞する活躍を見せ、弓道部も東日本大会に出場しました。

文化部でも、県高校芸術文化祭において県下最多の6部門(弦楽・美術工芸・写真・放送・文芸・茶道)で最高賞である芸術文化祭賞等を受賞し、今年8月の全国高校総合文化祭に出場することになっています。また、演劇部も県大会第2席に入り、4年ぶりに関東大会出場を果たしました。

進学では、令和5年3月の卒業生は、普通科と探究科を合わせ、国公立大学に延べ109名、私立大学には延べ487名の合格者を出しました。国公立大学合格者は6年連続で100名を超え、私立大学合格者は4年連続で400名を超えており、ここ数年安定した実績をあげているところ です。

生徒たちは、明るく元気に日々の活動に取り組み、そしてしっかりと前を向いて確かな歩みを進めています。その中で生徒たちは、3年間をかけて甲府中学・甲府一高140余年の伝統を肌で感じ、受けとめ、そして自らの高校生活で体現すべく、もがきつつ努力しています。伝統は過去の歴史の中にのみあるのではなく、今まさに一高で学んでいる生徒たちが3年間で成長していく姿の中に現れるのだと思います。

今年本校同窓生石橋湛山没後50年に当たります。甲府中学において大島正健校長先生より受けた薫陶は、湛山の人生に大きな影響を及ぼしました。そしてその精神は「Boys be Ambitious!」「Be Gentleman」の言葉とともに今の一高生にも確かに受け継がれています。今後、多くの同窓生のお力をお借りしながら、甲府中学・甲府一高の伝統をより体現する生徒の育成を目指して、教職員一同努力して参ります。

同窓会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。甲府中学・甲府第一高等学校同窓会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念しまして御挨拶いたします。



新章始動に寄せて

一組担任 藤巻 敬正 先生

令和四年、北杜市で開催された「米コンクールin北杜」の会場で、偶然にも平成二年卒業三年一組委員長の柴田雅央君と出会いました。三十数年振りの再会、一瞬互いに立ち止り、「あ先生、藤巻先生ですよね」「ん、柴田君、どうしてここに」「僕、農業やりたいと思っ

ているんです」。話は弾みました。六十歳で退職した私は、教師という職から離れ、米づくり（無農薬・有機肥料）に取り組んでいます。

しばらく当時を振り返り、懐かしい話をした後、甲府一高同窓会の話になり、その場で今回の寄稿を依頼されました。卒業アルバム（平成二年卒）を何度も見ているうちに、少しずつ記憶が甦りました。旧校舎の風格、正面玄関を入ると目の前に現れる重厚な階段、懐かしく思い出されます。今も続いているのでしょうか「あの応援練習」。時のAETが、その光景を見ながら、私の横でボソッと「クレージー」と呟きました。私は、肯定的だったのですが、強行遠足にも深く関わりました。言葉では表現できないすばらしさがあります。今でも無事終了することを祈り、エールを送り続けています。

改めて、生徒の皆さんを思い出すとともに若かった私自身をも振り返ることが出来まし

た。伝統ある一高同窓会記念誌に寄稿する機会を与えて下さったことに感謝申し上げますとともに、一高の益々のご発展をお祈り致します。追記になりますが、今の私の生活から生れた「百姓の詩・ふたつ」載せさせていただきます。

「祈り」

木々の若緑が落ち着く頃

田植の準備が始まる

稲苗の根がしっかりと張ると

大きな穂が実る

代を掻く とはそのための床を

つくることである

水田は平らな方が良い

山間の小さな田は

トラクターで耕しても

最後は人力で均さねばならない

代掻きの手作業は

充実感とともに疲労感も強い

田植への準備をすべて終えたのは

日が沈む頃である

苗を待つ水田は静かである

私は西の山に向かい

夕日に導かれるように
無意識に 両手を合わせていた

柳田國男は言った

田の神は

田植の時期になると

近くの山に降りて来ると

「麦の種を蒔く」

指先からするすると

麦の種が落ちる

種は喜んでいる

種は私と大地をつなぐ

やわらかな道をつくる

大地とのつながりを感じると

私の魂は浮遊する

我が家の食卓に焼きたての

パンが載ることを思いながら

うれしくて

まぎれもなく人間は

大地の一部だ

必要なものは全部

土からもらっている

だから やがて

私自身を

土に返すことになる



日新鐘

二組担任 赤池 亨 先生

「日新鐘」は、甲府一高の長い歴史を高いところからずっと見守ってきた釣鐘です。現在は、校舎のアトリウム（中央広間）に架かっていて、新校舎に入ると、目の前で見られるようになっていきます。

前の校舎のときは、本館西側の高いところに見ていただけだったので、屋上に登らなければ間近で見ることができなかつたと思います。職員であった私も近くで見たことはありませんでしたが、授業や定期試験の合図になる音として、通常のチャイムと併用して使われていました。教務係に配属されていた時は何度か鳴らす機会がありました。綱を引くタイミングが難しく、先輩の先生方に、何度も指導を受けたことを思い出します。



それとは別に、卒業式のとときに全員に配布される冊子の『日新鐘』があります。その年の学校行事の記録や部活動の結果、各クラスの紹介、卒業生のコメントなど、現在でも同様な形態で引き継がれています。

平成二年の日新鐘も、昨年十一月にご逝去された第二十六代校長三澤弘毅先生の巻頭言にはじまり、皆さん一人ひとりの言葉が載せられていて、ページをめくる度に懐かしさが込み上げてきました。

皆さんが書いた一行のコメントは、字数が少ない中にそれぞれの個性が凝縮されていて、何度も読み返してしまいました。卒業アルバム顔写真と対比しながら読んでみると、その当時にタイムスリップしたように感じます。

また、クラス紹介のページでは、意味不明な部分も散見されますが、読んでいるだけでそれぞれのクラスの様子を思い起されました。三十代の前半だった私の記憶を呼び起こしてくれるものが沢山あり、久しぶりに開いた卒業アルバムと共に、三十年以上前の記憶が少しずつ蘇ってきて、楽しいひと時を過ごすことができました。

楽しい思い出の中にありながら、保坂憲治先生がご存命でないことが、非常に残念でなりません。先生とは職員室が同じになることが多く、隣の席から、様々なご助言をいただきました。心から感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。

甲府一高を最後に、退職してから七年が過

ぎ、私も遂に、高齢者の仲間入りをしました。戦後、しばらくしてから生まれた私たちの世代は、戦争の惨禍を経験せずに人生を過ごすことができました。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻、中国の覇権主義の台頭、度重なる北朝鮮のミサイル発射などに加えて、日本政府が示した防衛政策の大転換など、混乱する世界情勢が予見される中で、皆様やお子様たちの将来が非常に心配になっていきます。

今回のように、これから十年、二十年経っても、日新鐘や卒業アルバムを見ながら、皆さんとの思い出に浸ることのできる平和な時代が永く続くことを切に願っています。

前回、リアルに同窓会を行うことができた担当学年は昭和六十二年卒の先輩方で、奇しくも、私が一高に赴任して初めて担任した学年でした。それから、三年が過ぎ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、今回の開催が可能になったことは大変に嬉しく思っています。

令和五年度同窓会を企画・立案・実行された平成二年卒の皆様へ感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご発展・ご活躍を心からお祈り申し上げます。



思い出す

甲府一高の同窓生

三組担任 五味 武彦 先生

今年度の甲府一高同窓会の記念誌部会長白井礼史君から、卒業年度の担任として文章を書くことの依頼がありました。当時の思い出を含めてまとめて欲しいとのことでした。

改めて考えてみますと、30年近く前のことです。私から思い出すのに少し苦勞します。あの時、私の年齢ではクラス担任をうけもつ最後の3年間でした。個人的にはかなり張り切って引き受けたつもりでした。しかしクラスの生徒には十分な指導をしてあげられたいはいきれません。生徒は自分の力で進路を切り拓いて進んだように思います。

私の担当する教科(理科生物)の関係で、教科選択の生徒のみの指導でしたから、クラス全員に向けての指導はHRのほか学園祭、修学旅行、強行遠足など学校行事を中心に生活指導、進路指導が大きかったと思います。私の校内分掌が生活指導副主任ですので、個人的には苦手な制服、頭髮、飲酒、喫煙などの取り締まりの係で、生徒に煙たがれることも多かったことと思います。

そんな中にあっても懐かしい思い出がいっぱいあります。1年生の時でした。クラスのH君が「東京の国技館の相撲取りになりたい」と言って、夏休みに横綱加賀美里の部屋に体験入学したことがありました。学年主任に相

談しながら期待も心配もしながら送り出しました。結果、部屋入門はなりませんでしたが、生徒には好い思い出になったと思います。

2年生の時は修学旅行でした。当時は変形学生服(短ラン、長ラン)が流行っていました。京都市から、その指導に手を焼きました。京都の宿舎から普通の制服で出るので、しばらくするとコインロッカーのある駅前で、短ランに変装したのを目撃したのにはショックを受けました。かなりの数の生徒が、教師の目から逃れたことを思い出します。また、京都の夜、新京極へ外出のたび、他校の生徒とのトラブル防止等の一点で行った指導(服装検査)もありました。これらは教育の本来の指導ではないのでしょうか。

3年生の時は受験対策でした。当時は大学受験が中心でしたから、生徒の受験希望の大学をあらかじめ調べておき、センター試験会場や受験大学を回ったこともありました。福武書店(現在ベネッセ)、代々木ゼミナール、河合塾などの偏差値による可否の判定に一喜一憂しました。また、浪人生の下宿先を訪ねて激励したことも今や懐かしく思い出します。楽しかったことも数多くありましたが、反省することの方が何時までも記憶に残ります。

今回の同窓会のテーマ「新章始動」歩き出

そう、今ふたたび「ここから」に触発されて、私は今同窓生の一人として甲府中学(現本校)の大先輩の石橋湛山さんの伝記を読んでみます。湛山さんは幼少のころから利発で仏教寺院の薫陶を得ながら、中学生生活を過ごしました。交友会誌投稿の文章の中で当時、世の中の出来事に注意をはらい、積極的に改革の意見を述べています。在学中、校長の指導に心を開き、その後の日本における言論界、政界での活躍は山梨県をはじめ日本全体の指導者として知られるところです。

そのような偉人の若き日の活躍の様子を浅川保さん(山梨平和ミュージアム理事長)が、本校百周年記念館資料室の中から見つけ発表しました。私も湛山さんが人生をかけた思想の源流を学んでいるところです。湛山さんの宗祖が著した「立正安国論」に興味全開中です。今、ウクライナでは戦乱のさなか、中近東も戦争が続いています。私たちもこちらの岸にいて眺めているだけで済むはずはありません。戦争が身近に迫っていた明治、大正、昭和の時代に確固たる叡智と信念で日本国のリーダーとして立ち向かった、石橋先輩に少しでも近づきたいと思っています。



あの頃のこと、 そして今のこと

五組担任 櫻田 邦人 先生

創立一四三周年の同窓会総会の開催、誠に
おめでとうございます。また、平成二年卒業
の皆さん、当番幹事の大役ご苦勞様です。コ
ロナ禍ではありますが、予定どおり無事開催
できますことを祈念いたします。

総会記念誌への寄稿依頼の電話を頂いて、
久しぶりに卒業アルバムを開き、皆さんの歳
を数えて見たりしました。今はそれぞれの場
で頑張つて活動されていることと拝察します。

遠隔地校勤務を終えて、甲府一高に赴任し
た私はここで三回の卒業生を送り出しまし
た。その二回目が皆さんでした。二年生から
の担任でした。今アルバムを見ながら思い出
すのは、皆さんが純粋で大人で、周囲に対し
て非常に友好的であったということです。赴
任したばかりの私も早速ニックネームを授
けられたりしました。こうした開放的な雰囲気
の中で、皆さんの進路を共に考えることがで
きたことは、今もって嬉しいことです。校舎
改築の動きもそろそろ始まるうとする時期
に、最後の教室で皆さんと共に時を過ごし、長
い伝統を強く感じました。また恒例の強行遠
足では、クラスの生徒がテレビのバラエティ

番組でその様子を取材されるなど嬉しいこと
もありました。

さてもう一つ、部活動では水泳に携わりまし
た。高校の水泳部とは言え、当時すでに各校の
活動の拠点はスイミングスクールに移る中で、
一高はまだ学校のプール練習にも重きを置きま
した。プールサイドで「頑張れ」と叫びながらも、
顧問の私は全くの「金槌」だったのです。それ
でも部員はよく練習に励んでいました。自分も
いつかこんな泳ぎたい、泳げるようになりた
い、そう強烈に思うようになってくれたのがこの
経験です。そしてこの思いは、退職してから実
現しました。泳げるようになったのです。今当
時を思い起こす時、あの一高のプールで長い距
離を生徒と一緒に泳いでいたらと、叶わぬ夢を
懐かしむ次第です。

さて六年間の勤務を終えて転出しました。
その後四校の勤務と県庁勤めを経て、今は退
職して十四年になります。ここからは全くの
私ごとで恐縮ですが、町役場から要請のあっ
た幾つかの業務や会議等に関わってきました。
中でも難しかったのが、学校の統合問題
でした。過疎化のために統合を重ねて、数少

なくなっていた中学校を更に一校に収束する
というものでした。会議は行ったり来たり、
決まった事も根底から覆されそうになること
も度々でした。地域の根強い想いと願いを背
景にしながら、学校を閉じることの辛さと難
しさを皆でつくづく感じました。

さて、話は全く変わりますが、減少してい
く人間に代わって今増えているのが野生の鳥
獣です。特に鹿、猪、猿です。農作物に与
える被害は深刻で、新聞でもよく報道されて
いるところです。我が町も例外ではなく、特
産の「曙大豆」は鹿に葉を食べられて木は茎
だけになってしまいますし、猿に襲われたら
全滅です。そこで私は、ハンターになり有害
鳥獣駆除に参加しています。昔流に言えば猟
師です。農家の味方などと言う格好のいい話
ではなく、以前から関心のあった領域なの
です。これだけ身近に被害があるなら、一石二
鳥というので始める事になりました。猟は
危険を伴いますが、安全を第一に、そして責
任を持って動物と対峙しています。現役時代
には思いも寄らなかった今ですが、健康なれ
ばこそと考え続けているところです。



充実した楽しい 三年間でした

六組担任 戸田延子先生

今は昔、の記憶なので不確かな点が多いのですが……。

一年生の時のクラスの思い出。全校球技大会のこと。我一年生クラス対二年生のバスケットの試合で。先輩に試合中邪魔されたり終わってからとり囲まれ乱暴されたことを、クラスでとりあげました。正常な試合ではない、許せない……。二年生の対戦クラスに抗議文を渡しました。相手は思いがけない抗議に驚いたようですが、正式な謝罪がありました。また、生徒総会で「球技大会」について議題とするよう提案しました。一年生の他のクラスにも相談し、共同提案の形になりました。

結果、バスケ、ハンドボールなど接触競技は審判に教師一名が必ず付くことになりました。クラスでも先輩とも生徒総会でも、ドキドキハラハラしながら自分達の思いを発言したことはすばらしかったと思います。

二年生の時のクラスでは、何といっても、「生徒会長」に立候補するというY君を応援して、当選させたことです。Y君は会長にふさわしいとは言えない生活ぶりでした。「いいかげんな気持ちなら、大学の推薦ならなら応援できない」などクラスで大問題になりました。何回も話し合い、本人の決意を確かめて、クラスとしてとりくむことになりました。グループに分け、校門で登校する生徒にむかって「お願ひします」、下校時にも同じことをしました。SHR前の教室訪問もしました。本人の演説の練習もくり返し行いました。

「絶対無理」とのクラスの予想をくつがえして、当選しました。生徒会役員にクラスの人かが入り、相手候補のA君にも助けてもらい、会長の役目を果たしました。卒業式には、在校生代表として立派に送辞を読みました。

「班長会」をよくやりました。班長は「こんな班にしたい」と抱負を述べて立候補しました。選ばれた班長が班員を選びました。学園祭には、いつも全力でとりくみました。

三年生の時、合唱曲「ハレルヤ」に挑戦

しました。毎年の合唱コンクールで三年生のすばらしさに、いつも感動していました。今年こそ、と意気込みました。外国の歌詞ですし難しい曲でしたが、クラスのS君が編曲してくれ、パートの責任者を決めて練習に励みました。学年二位の成績で残念でしたが充実感がありました。今もあの時の歌声がよみがえります。

個性豊かな生徒に囲まれて、充実した楽しい三年間でした。改めて「ありがとう!」。現在私は七十七才、喜寿を迎えました。退職後書道に再挑戦し、毎年夏に東京で仲間と展覧会をしています。主に自由と平和をテーマとした詩や言葉を漢字かな混りの作品にしています。二〇二二年の作品の一つが、大好きな詩人、茨木のり子「落ちこぼれ」でした。これを読むと、落ちこぼれという言葉に対するとらえ方が、全く変わります。

皆様の健康と活躍を祈ります。



一高での思い出

七組担任 田中 忠夫 先生

創立143周年おめでとうございます。同窓会の皆様、こんにちは。

一高同窓生の多方面での多大な活躍は、一高で教鞭を執った者として大変嬉しく、頼もしく思います。新聞などに活躍の記事が掲載されると先ず真つ先にその記事を読み、その活躍の様子とすばらしさを噛みしめています。

私は一高には19年在任しました。最初に赴任したのは昭和49年4月で、7年間在任し、一旦一高を離れ3年後に再び一高に戻り、平成8年に再度離任するまで12年間在任しました。19年といえますと、私の教員生活の丁度半分を占めることになりました。先生方、生徒にも恵まれ、この期間を県下で最も古く、すばらしい伝統と歴史を持つ学校で無事教鞭が執れたことに、心より感謝申し上げます。

次に在任中の思い出に触れます。諸々の思い出がありますが、大きな思い出と言いますと、同窓生と同じく私にとっても恒例

の強行遠足です。男子は終着地小諸を、女子は小海を目指してひたすら走り、歩く姿は、現在でも強烈な印象として残っています。特に男子の場合、足を引きずりながら各救護所にたどり着く姿は私の脳裏から今でも離れません。この行事は全国的にも知られているすばらしい行事です。言うまでもありませんが、この強行遠足を通して培われた精神は、将来においていろいろの困難に遭遇した際などに必ずや役立つことと信じています。

もう一つ挙げると、これは一高の校風とも言えるものです。学園の自由な雰囲気と生徒の自主性です。他校には見られない自由な雰囲気がありました。この自由な雰囲気の中で生徒は自主性を持って行動するということが学校の伝統となっているように感じられました。

続いて近況報告をさせていただきます。私は、教科が英語ということもあり、これまで40年以上国際交流に携わってきまし

た。山梨県国際文化交流会という団体に所属していますが、年齢の関係（現在80歳）で今は一線を退いています。定年退職をしてから間もなく21年が経ちますが、これまでも主として英会話を教えてきました。成人女性を対象に「すぐに使える時事英語」を教える機会がありました。退職前までは高校生が授業の対象でしたが、実際に成人女性を教えてみるとその意欲と熱心ぶりには驚きました。高校生を負かすくらいに授業には意欲的でまた熱心でした。

また私事で恐縮ですが、私は、国際交流の一環として、長年、外国人を自宅に招いたり、自宅にホームステイをしてもらったり、通訳を務めるなどボランティア活動にも積極的に取り組んできました。これが認められて平成30年には、図らずも文部科学省から社会教育功労者表彰を受けました。

最後に甲府一高のご発展と同窓生皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



私が本校で学んだこと

八組担任 葉袋 武雄 先生

社会の中核として活躍されている143回の当番幹事の皆さん、コロナ禍の中で大変ご苦労様です。私も約30年前の当番をつい昨日の様に鮮明に思い出しています。私は10年間本校に在職して皆さんと前の142回当番学年の方々と連続で担任し、それに在学した3年間を含めて本校で得た「教え」は貴重な「糧」となっており、それを少し拙い文で恐縮ですが綴ってみました。

まず、前回の記念誌でも触れましたが、本校80周年記念事業で講演された本校の大先輩で傑出した言論人であった石橋湛山先生から得た教訓です。先生は戦前戦後を通じて権力に臆せず一貫して自由主義の孤塁を全うした在野の気高い論客でした。大正デモクラシーの一翼を担い大陸進出を図る権力の「大日本主義」に抗して、国民の自由と民権を伸張する立場から「小日本主義」を主唱した筋金入りのリベラリストで、講演で心に決めた想いは一途に貫くことと、己勝手な他者を踏みこむ行為は断じて許してはならないと強く語っていたことは忘れられませんが、過去の日本が犯した負の歴史と今世界で起きている第二次大戦の教訓を全く否定した大國の力による現状変更を意図し、弱小国へ侵攻する事態を想うにつけ、甚だ含蓄ある示唆に富む教えであったと思っています。

業高校と決めて授業以外の勉強は全くしませんでした。本校に入学すると級友には1年次の教科書は既に終え、2年次の勉強をする者もいて、己の学力の遅れを何とか挽回するのに1年が必要でした。因に本校では大学進学は外部の模擬試験ではなく、校内の学力試験で志望先が判断されていきました。また、田舎者と苗字が稀なことで所謂「いじめ」も経験しましたが、担任の先生の人を侮ることを強く否定した指導で次第と解消しましたが、この先生に出会えたことは先に光がみえた思いでした。更に、3年次の1学期末試験中に盲腸炎を患い予後が悪く県病院に再入院し、関節の激痛と高熱が続きやっと10月末の退院まで4か月間毎日天井を見上げては前途を悲観した暗たんたる時を送っていました。そして卒業までの期間は様子見の登校であり、出席不足のため留年は覚悟していました。担任の先生の骨折りと温情によって3月末に遅れて卒業することができました。親とお礼に伺うと「君は他の者と違った苦闘をしたはずで、これを梃子として体に気を付けて頑張り」と激励を戴きました。当時、この意味は分からず教員となつて問題を抱えた生徒と接するうちに徐々にその意味の深さを汲み取りましたが、教員は学習指導以上に生徒の内面の苦しみに寄り添うことの大切さを教えて戴き今でも肝に銘じています。この3年次の先生は地学と物理担当

でしたが、暇を見つけては白衣と長靴の姿で校内の花壇の手入れを黙々とし、これに魅かれて他のクラスの生徒も自ずと多く集まっています。先生は早くに鬼籍に入られ、私の隣村の寺で静かに休んでおられますが、50歳の当番幹事を機に今でもクラス会が開かれて先生を偲んでいます。

また数学の先生が授業の合間に偉人の話から数学史や相対性理論、更に哲学・ギリシャ神話などを話され、当時は全く理解は覚束ないまでも漠然と視野広がった様な心地がして大変興味を抱き、今にして想えば田舎者が広い未知の世界に関心を抱く契機と刺激を戴いたと思っています。

最後に、皆さん方が卒業される頃の思い出に、毎年入学早々、バンカラで威圧的な応援練習の「蛮風」の伝統が多くの先生方の批判もあって、皆さんの1年先輩の生徒自治会では議論・検討の末、この批判を受け入れて改善しましたが、このことは生徒自身に自由と自律の伝統が継承されている証であつて誇りと思つています。この民主主義の根幹である「自由」と「自律」を脈々と継承する本校に縁を得たことを至上の宝としており、今後とも増々発展させて戴けたらと存じております。

三の九の一年

九組担任 三科 益人 先生

三年九組の皆さん、お元気でしょうね。

五十歳になられる由、一社会人として、各々の道で、ご活躍のことと思います。高度成長社会への進化の原動力となった皆さんこそ今まで培った知恵を存分に生かして、より誰もが心地良く生きられる日本を築くため貢献してください。それが高齢者となった私の願いです。

ここでは教室で話すことのなかった寄り道をしてみます。

平成元年四月に甲府一高に転任し、最初に担任したのが皆様です。進路決定の大事な年です。とまどいました。が、先ず思い出したのは、卒業式（平成二年三月一日）。私も袴で気を引き締めて臨んだ最後のHR。一高を巣立つご子息を見守る父兄の中で、クラス全員が濃いピンクのガーベラを一本づつ手渡して下さったことは優しい心を思い出させます。

三十二年経た最近、富士山を借景にした我が家の庭で楽しみます。毎日暮すこの庭の珍しいものを紹介します。

1. 落雷で樹皮のみ残った青桐は、子供の頃三人で手をつないでも周囲に届かなかったのが、さらに家の工事で皮の一部が残り、三メートルほどの所から青い枝を伸ばし大きな葉をつけます。

2. 川端に三本の渋柿、その二本は下枝を互いに横に張り、連理の枝（仲むつまじい夫婦の意）となっているのを数年前に見つけました。

3. 多羅葉、暖い高地に自生する常緑樹ですが、光沢のある葉に鉄筆で写経したと言われ、その赤い実を我が家では正月の飾りにもします。

真冬の椿、桜、新緑、ツツジ、サツキ、モミジ、カエデの紅葉、再び紅梅と四季の移り変りを教えてくれる自然の妙に感謝し

ております。感動することの少ない昨今、これが私の日常の姿です。

年賀状さえお正月になってやっと書いたという私ですが、三の九の皆様のことを思い出しながら令和五年の穏やかな新年を迎えました。生を受けたからには少しでも明るく日々過ごしていきます。

平成2年卒業生クラス写真



1組

〈担任〉藤巻 敬正 先生



2組

〈担任〉赤池 亨 先生



3組

〈担任〉五味 武彦 先生

平成2年卒業生クラス写真

4組

〈担任〉保坂 憲治 先生



5組

〈担任〉櫻田 邦人 先生



6組

〈担任〉戸田 延子 先生



平成2年卒業生クラス写真

7組

〈担任〉田中 忠夫 先生



8組

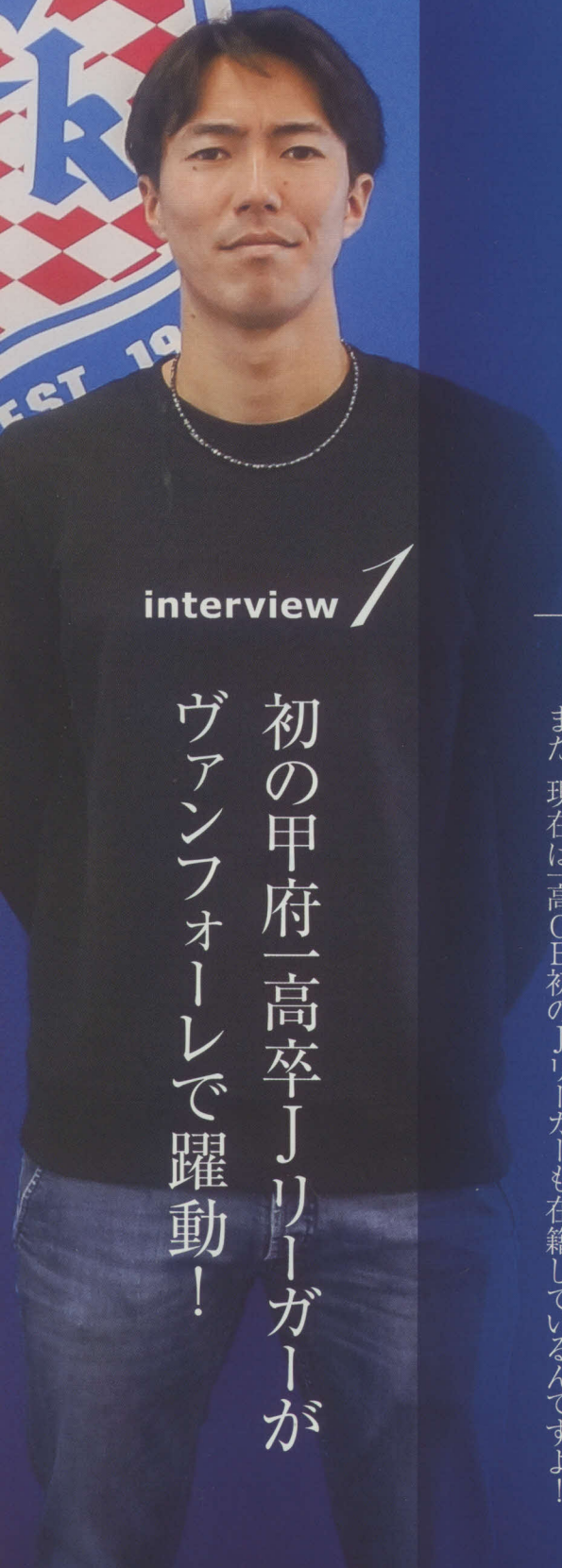
〈担任〉薬袋 武雄 先生



9組

〈担任〉三科 益人 先生





interview 1

初の甲府二高卒Jリーガーが
ヴァンフォーレで躍動!

小林 岩魚

ヴァンフォーレ甲府 背番号6

甲府二高と
ヴァンフォーレ甲府

昨年、サッカー天皇杯を初制覇、山梨県中を熱狂させるとともに日本中を驚かせ、「史上最大の下剋上」と言われたヴァンフォーレ甲府、実は我が母校ととても縁が深いってご存じでしたか？
大元のルーツは二高のOBチームから来ていて、初代オーナーも旧制甲府中学OBなんです。
また、現在は二高OB初のJリーガーも在籍しているんですよ！



interview 2

継承と連携
地域と歴代の想いを繋ぐ

佐久間 悟

(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ
代表取締役社長

—ではU・15やU・18(中学・高校)時代は?

U・15で西川監督(現・VfB甲府トップチーム強化部長兼アカデミーダイレクター)に出会って、キャンプテンをやらせてもらったり、あえてポランチなど色んなポジションを経験させてもらったりしました。そのおかげでプレーの幅が広がって、サッカーの本当の楽しさがだんだん解ってきました。中学の終わり頃には、今に通じる左ウイングをやらせてもらうようになりました。

U・18でも、ポランチをやったり、トップ下をやったり、SB(サイドバック)をやったりと、多くのポジションを経験させてもらいましたね。

—噂では、高校時代、いつでもどこでも、テレビ観ながらでも体幹トレーニングをされていたとか?

あの、相手DFと競り合っても崩れない正確無比なクロスは、そこから生まれたんですね?

高1の頃に急に背が伸びて、身体のバランスが崩れてしまい、上手く身体が使えなくなってしまいました。それを克服するために体幹トレーニングを始めましたが、やっていくうちに状態が良くなり、自分でも気が付かないうちに、人から「身体が強いね」と言われるようになりました。確かに、それが今につながるのかもしれないです。

—ではこのあたりでちょっと、高校生活のことを聞かせていただきたいと思います。

高校時代は、VfB甲府U・18の活動が忙しかったと思います。一高生としてのスクールライフはどんな感じでしたか?

本当に楽しかったです。家からも近かったし、中学時代の仲良い友達も多くが一高に来たので。

当時、二高の授業が終わるとU18練習場の八田まで自転車で通い、夜遅くに家へ帰るという毎日でした。いま思うと結構大変だったんじゃないかとも思うんですけど、当時は一度も辛いと思ったことがないんです。

—学生生活もサッカーも、心から楽しく取り組めて両立できた、充実した3年間でした。

—今もそうでしょうけど、

—当時もさぞモテたんでしょうね?

いやいや、そんなことは...(笑)

—卒業式で頼まれて一緒に写真を撮ったりとかはありましたけど、それほどはモテてないです、たぶん(汗)

—一高での、特に印象に残っている思い出はありますか?

1年生のとき、年代別の日本代表候補に選ばれて、学園祭に出られなかったことがあったんです。

そのとき、クラスメートが僕だけのために、合唱祭で歌う曲を歌ってくれました。

結局、3年間ずっと学園祭には出られなかったんですけど、他の年もみんなで寄せ書きをくれたりとか。

—サッカーをやっていることで学校生活にはかなり影響があったんですが、同級生みんなが受け入れて応援してくれて、それが本当に嬉しくて...すごくモチベーションになりました。

—それはとても素敵な話です!



©1998VfK

クラブ概要

株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ
代表取締役社長 佐久間悟

所在地 〒400-8545

山梨県甲府市北口2-6-10

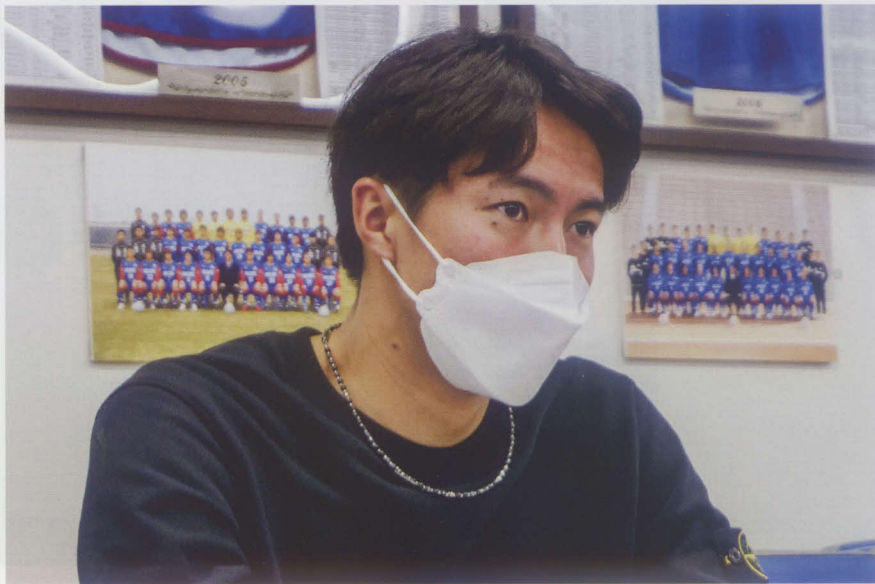
電話 055(254)6867

チーム名の由来

『VENT(風)』『FORET(林)』というフランス語の組み合わせで、『風のように疾く、ときには林のように静かに...』で知られる戦国時代の武将、武田信玄の旗印『風林火山』に基づきます。

エンブレム

チームカラーの青を基調にデザイン。山梨の豊かな自然の象徴として県花「フジザクラ」を上部に配し、ヴァン(風)フォーレ(林)のチーム名の由来である武田信玄の家紋・武田菱を、ブドウをイメージしたワインレッドで表現。中央の「VfB」は、ヴァンフォーレ甲府の略語であるとともに「Vital Fighting Knights(生き生きと戦う気品ある勇士たち)」の意。



良いクラスメートや友達に恵まれたんですね。

ところで話は変わりますが、体力テストのシャトルラン(20mを音楽に合わせて延々と走って往復し続ける体力測定種目。高校3年生の平均は80回くらい)が、かなり凄かったという情報があるんですが。

シャトルランは頑張りましたね。自分の記録は覚えていないですが、時間の制約があつて途中で先生に止められてしまいました(笑)

小林選手のあの途轍もない走力は、その頃から培われていたんですね。

試合でも、さっき左サイドの相手ゴール近くでクロス上げていたと思つたら、もう相手のカウンターに対応して右サイドの自ゴール脇でボールをクリアしている、なんてプレーを見ます。

育成年代の頃はめちゃくちゃ走らされましたから、体力には自信がありました(笑)

では、強行遠足の順位なんかはどうでしたか？

強行遠足は、無理をして故障してしまつては困るので、順位には拘らなかつたですが、1、2年のときは完走しました。しかし残念ながら、3年目は試合があつて出られませんでした。

そうか、それは残念でしたね。

強行遠足での思い出はどんなものがありますか？

真夜中、清里とか野辺山あたりの夜空ですね。星がめちゃくちゃ綺麗で、流れ星まで見えました。今でもすごく印象に残っています。

さて、一高を卒業されて、専修大学サッカー部に入りました。

当時はどんなポジションで、どんなプレーをされていたんですか？

自分にとって、左SBがプロへの可能性が一番高いポジションだと考え、そこで勝負しようと思えました。ですから大学時代はもう、サイドを駆け上がつて左足でクロスを上げる、今に通じるプレースタイルでしたね。

「マスコット」ヴァンくん

山梨特有の日本犬で、国の天然記念物でもある「甲斐犬」をモチーフにしています。みんなから親しみやすく覚えやすい名前であること、サポーターの皆さんからの応募数が一番多かったこと、そして「ヴァンフォーレ甲府」の頭の部分を取って「ヴァンくん」と命名されました。

「マスコット」フォーレちゃん

ヴァンくんと同じく「甲斐犬」をモチーフにしており、ダンスが得意な女の子です。山梨の名物であるブドウの葉をイメージした前髪が特徴です。ヴァンくんと一緒にヴァンフォーレ甲府を盛り上げます。

ホームタウン

山梨県の全市町村(2005年7月19日広域化)



©2009VFK

©2006VFK



©2023VFK



©2023VFK

大学ではキャプテンを任されていたとか？

実は正直、チームをぐいぐい引張っていく、キャプテンらしいキャプテンではなかったです。

でも後ろからチームを支えるというか、みんなと一緒に進んでいくタイプを目指してやりました。ですが、チームの人数も多かったので、結構大変だった思い出があります。

大学をご卒業後、V F甲府と契約してJリーガー、プロのサッカー選手になりました。

V F甲府と契約された最大の要因って何でしょう？もちろん、ユース時代にプレーされていたというのが大きいと思います。

やはり、一番最初に声をかけてもらったことが大きいです。

森さん(V F甲府の強化部スカウト。伊東純也選手や佐々木翔選手も獲得した)がずっと追ってくれていて…。

森さんには常々、ためになるアドバイスもいただいていたんです。

やっぱり、森さんって凄い人(湘南のスカウト時代には中田英寿選手を獲得している)なんです。

はい、凄いです。見ているところも違うし、アドバイスとかも的確です。

小林選手は、甲府で生まれ育って、大学で一度外に出られ、また甲府に戻って来られました。

生まれ育ったまちである甲府については、どのような思いを持たれていますか？

甲府は僕にとって特別なまちです。両親や祖母もいて、昔からの友達もいる。

本当に居心地が良い場所で、甲府でプレーできることは幸せだと感じています。

小林選手という、サイドを駆け上がって左足からの高速クロスが必殺プレーですよ。

4月の仙台戦で三平選手のゴールをアシストされてから出場機会を増やし、8月の琉球戦でお怪我をされるまで、V F甲府の攻撃面での大きな武器でした。ご自分ではあの鋭いキックについて、どう思っていますか？

はい、あのキックは僕にとって最大の特徴であり武器なので、これだけは絶対に誰にも負けてはいけないプレーだと思っています。

1試合に何本クロスを上げられるか、そのうち何本FWの選手に合わせられるか、そこにはすごく拘っています。

あのクロスって、例えば子どもの頃、誰か憧れの選手を参考にしたりとかしたんですか？

いえ、特にそういうのは無くて。

実はあれは子どもの頃、父からのアドバイスで始めたんです。

父は全くのサッカー素人なのですが、僕の試合を見ていて、フワッとしたクロスじゃなくても、もっと鋭い球を出せ、たとえ味方に合わなくても、相手に当たってオウンゴールも誘えるじゃないか、と。

なるほど、親子で作り上げた得意プレーなんですね！

それがプロへの道を開いたとは、素晴らしいですね。では、他にもこれが得意だ、ここを見て欲しい、というプレーはありますか？

プレースキックもよく蹴られますよね？

そうですね、全体的にキックには自信がありますし、拘っています。

プレースキック、ロングパス、スルーパス：色々なキックに注目していただきたいです。

あとは例の掛け声ですね？(素っ頓狂な掛け声がチームメイトやサポーターにウケている)

最近では、年下の選手達にまでイジられるようになってしまってます…。

98年組の奴ら(長谷川、山田、須貝、鳥海選手など)とか、基本的にナメてるんですよ(笑)

でも、あれで盛り上がりつつチームの士気が上がれば良い、と思っております。

ファン感謝デーのステージトークでも、めちゃくちゃウケてましたもんね(笑)

では、試合中や練習中に、意識しながらやっていることは何でしょうか？

練習中は、全てを試合を想定してやること、今はどんなシチュエーションなのか考え、練習のための練習にならないように心がけています。

また、試合では、最初のワンプレーに拘ります。それでその日の出来が決まってしまうつもりで、たとえ近くの選手にパスするだけだとしても、丁寧に蹴ります。

なるほど、つまり1球1球を無駄にしない、ということなのでしょうが？

はい、そうですね。あとは、ミスしてしまったときに落ち込まず、気持ちを切り替えることを意識しています。

すぐに次のプレーがやってくるので、反省は試合が終わってからします。

僕も元々は引きずってしまう性格なんですけど、そこはメンタルを変えていかないといけないと。

小林選手は、VF甲府では左サイドの仕事人としてWB(ウイングバック)、3バックのフォーメーションでサイドの攻撃と守備の両方を担うポジションを担われていますが、WBやSB以外に、他にやってみたいポジションはありますか？

右サイドのアタッカー、例えば4-3-3の右ウイングなんかをやれたらとも思います。

左ではなく、右なんですか？

はい、右からカットインしていつて、得意な左足でクロスとか、アタッカーもやってみたいなと。

確かに、それも面白そうですね。

ところで、チーム内で特に仲の良い選手って、どなたかいらつしやいますか？

引退されてしまいましたけど北谷選手、それから臣さん(山本選手)、さんぺーさん(三平選手)、荒木キャプテン、そして移籍しちやいますけど、同い歳の浦上とか。

誰か特定の選手というよりは、皆と仲良くしている感じです。

けっこう年上の方が多そうですね。

休日やオフは、どんなことをしてリフレッシュさせていますか？趣味とか、ハマっておられることとか。

家で映画を観たりとか、近くのカフェに行ったりとか、インドアでゆっくりするのが好きだったんですけど、最近は、アクティブに外に出かけることも増えましたね。

北杜市とかにあるプライベートサウナなんかよく行きます。



今後、ご自分のプレーのこころを伸ばしていきたい、もしくはこういうプレーを身に着けていきたいとか、考えておられることはありますか？

ヘディングです。達磨さん(吉田前監督)や佐久間さん(社長)にも言われていますし、自分の中でも弱点というか、あまりやってこなかった部分だと思っていて、練習から取り組んできましたし、これからも引き続きやっていきます。

では、2023年シーズンに向けての抱負を教えてください。

今年のVFA甲府は、リーグでは不甲斐ない結果に終わってしまった一方、天皇杯では皆さんの応援のおかげもあって初めての優勝という素晴らしい結果を残しましたが、僕は夏に怪我をしてしまって、チームの良いときも悪いときもピッチに立つことができず、悔しい思いをしました。

ですので、来期にかける想いは、誰よりも強いと思っています。

来年はACL(アジア・チャンピオンズ・リーグ。天皇杯優勝チームとJ1の上位3チームが出場できる、アジアNo.1のクラブチームを決める大会)もあります。それが以上にリーグ戦、絶対にJ1昇格を達成し、それに貢献したいです。

力強いお言葉をいただきましたね！

来期の小林選手とVFA甲府には、これまで以上に期待が持てそうです。

ぜひ、山梨県民の悲願である、J1復帰を達成させてください。

最後に、一高関係者へのメッセージを伺いたただけですか？
まずはOBの方達へ。

甲府二高は長い歴史のある高校で、OBの皆様方がその歴史をつないで来られたおかげで、自分たちも様々な面で助けられて、楽しい学生生活を送ることができましたし、高校を卒業してからも、すごく愛着を持っています。

日頃から二高OBの方々に応援していただいていることも本当に光栄ですし、僕もその二高OBの名に恥じないよう頑張っていきますので、これからも応援していただけたらと思います。

ありがとうございます。

では、現役生の後輩たちにも一言、お願いします。

一高での3年間は、僕の人生でも重要な日々でした。当時、面倒くさいとか嫌だとか感じていたこと、それさえも今にして思えば、僕の間人形成の核となったと感じていますし、一高で出会った友達、一高で過ごしてきた日々は、僕にとってかけがえのないものになっています。

現役生の皆さんには、貴重な3年間、全力で勉強して、全力で遊んで、全力で思い出を作って、最高の高校生活にしてほしいです。

一高で経験したことは、絶対にこれからの人生でプラスになると思うので、ぜひ自分を信じて突き進んで欲しいと思います。

いやー、最後に素敵な言葉をいただきました。

これは現役の子たちにも、すごく刺さると思います。

本日はどうもありがとうございました。
小林選手の来期のご活躍を心よりお祈りしております！

はい、頑張ります！ありがとうございました！！

インタビュー…白井礼史(平成2年卒)
写真撮影…小川勝生(平成2年卒)



継承と連携 地域と歴代の 想いを繋ぐ

(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ
代表取締役社長

佐久間 悟

Satoru Sakuma

1963年7月7日生、東京都東村山市出身。

(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ代表取締役社長。

城西大学付属川越高等学校から駒澤大学を経てNTTに入社、

2007年に大宮アルディージャ監督を務めた後、

2008年にヴァンフォーレ甲府のゼネラルマネージャーに就任。

2011年と2015～2016年には監督も兼任した。

©2022VFK

※このインタビューは2022年12月に行ったものです。

佐久間社長、お忙しいところをありがとうございます。今日はどうぞよろしくお願ひ致します。まずは今シーズンお疲れさまでした。天皇杯優勝、本当におめでとうございます。10月16日の天皇杯決勝戦から2か月少々経ちましたが、今はどのような心境ですか？

優勝当時はまさに歓喜で、皆さんとともに喜びにひたらせていただきましたが、現在では、クラブとしては気持ち切り替え、チーム編成等、来シーズンを見据えた現実的な仕事にシフトしています。ただし、天皇杯優勝によってもたらされたものは非常に大きいと考えていて、様々な経済的な効果のみならず、ヴァンフォーレ甲府（以下VF甲府）というクラブに対する再認知がされましたし、大きな流れが変わった、という実感を感じています。

現在、来シーズンのチーム編成は順調に進んでいらっしゃいますか？

来期は、リーグ戦や天皇杯だけでなく、ACL（アジア・チャンピオンズ・リーグ、天皇杯優勝チームとJ1の上位3チームが出場できる、アジアNo1のクラブチームを決める大会）も控えていますので、これまで以上に選手層の厚さが求められますよね。

2022シーズンの課題は、失点が多くて得点が少なかったことでした。しかし逆に、シュート数・被シュート数はともに、リーグ3位になった2021シーズンよりも良い数字でした。これにあたり、個人の能力、例えば身長であったり、スピードであったり、いわゆる決定力であったり、そういった部分を改善するための、補強を行っています。

選手層については、今期より若干、人数を増やすつもりです。これは、ACLもそうですが、2024年からJ1のチーム数が2増えて20チーム制となるため、2023シーズンは非常に大切な年になってきて、天皇杯も含めスケジュール的にも9〜10月が厳しくなるので、選手の数が必要になってくるからです。ただ、やみくもに選手を増やしてしまうと、翌々以降の選手編成に支障をきたしてしまう可能性もあるので、期限付き移籍を活用するとか、単純な選手の数よりも個々のクオリティを重視するとか、工夫が必要になってきます。

さて、VF甲府は、甲府一高蹴球部のOBチームだった『鶴城クラブ』を中心として昭和40年に結成された、『甲府サッカークラブ(通称:甲府クラブ)』を母体とされています。

また、創設者で初代オーナーの川手良萬(かてよしかず)さんも一高のご出身です。それらの縁から一高OBには、VF甲府に特別な思い入れを持っている方が多くいらっしゃいます。VF甲府と甲府一高のつながりを、どのように感じてもらえますか？

天皇杯決勝戦の後、甲府クラブOBである古参職員を中心にお参りを行い、VF甲府の歴史の基礎を作り上げられた先人である川手さんの墓前に、優勝報告をさせていただきました。

また、甲府一高の卒業生の方には、山梨の政治や経済の中心を担われているような、様々なシーンで活躍されておられる方、非常に優秀な方々を輩出しておられるイメージを持っています。

これからも地域を愛し地域を支える、次世代の人材を育てる教育機関として、発展していただきたいと思います。

佐久間社長は、2008年にGM(ゼネラルマネージャー)として招かれて、VF甲府の一員となられました。そのときから既に15年近くVF甲府にいらっしゃるわけですが、VF甲府の一員としてのこの15年は、どのような日々でしたか？

本当にあつという間でしたね。

私のGMとしての役割は孤独な仕事なんです。勝てなければ他の部門にも大きな影響が出る、プレッシャーのかかった仕事でもあります。ある意味で、他の経営陣や選手達とも相容れない部分は出てきますし、孤独が好きじゃないと長くは続けられないのかな、と思っています。

そうなんですか？社長はすごく社交的な方なのかと思っていました。

いえ、私は孤独が大好きですね(笑)ただ、良い意味での孤独。

私は「孤独」と「孤立」は違うと思っています。孤立してしまうと、仕事にならない。

孤独は受け入れますけど、絶対に孤立はしないと。コミュニケーションをとって、選手ともしっかり話して、スポンサーや行政の皆様達とも話して。

私は会社員時代、NTT関東のサッカー部(現大宮アルディージャ)をプロ化するという、夢みたくな話を任されて、それは想像を絶するほど大変な仕事でしたが、その経験がプラスになっているのかな、と考えています。

他の地域から山梨にいらっしゃった社長にとつての、山梨県や甲府市の印象、または魅力を教えていただけますでしょうか？



皆さん、甲府は不便な町だと言いますが、私はそうだとは思っていません。いちばん不便なのは、必要以上に人が溢れて、無駄に時間を過ごすことだと思っています。甲府って意外と、何をしても便利だと。

いま、人口の減少をすごくネガティブにとらえられています。都部に二極集中し過ぎているだけで、ある意味で甲府の人口は快適な、適正な人数なのではないか、とも思っています。

ただ、人口とは別に、少子化問題はすごく考えていかなければいけない。サッカーでいうと、応援していただけるサポーターの方が減っていきますし、サッカースクールもできなくなってしまう。



©2022VFK

あとは、山梨のアドバンテージとしては、東京から非常に近いですし、中部横断道のおかげで静岡もとても近くなったこと。リニアの建設予定もありますしね。

そういう部分では今、これからのグラウンドデザインを考えていく時期なのかなとも思いますが、私にとってもそんな魅力のある、山梨県や甲府市とVF甲府とが一体となって、社会課題や地域課題の解決を図っていきたいと思っています。

ちなみに、県内で社長のお気に入りの場所なんかがありましたら、お教えいただけますか？

武田神社が好きで、シーズン前のチームの必勝祈願でも行きますが、年間10回以上は行っていると思います。サッカーって、戦いのなかで喜愛していきますから、戦国時代の英雄である武田信玄公の祀られている場所に行って、しっかりとお参りをしましてね。

しかも真夜中に行くんです、1時とか2時とか。あそこに行くと、静寂な空間のなか。

でも、深夜であつても意外と様々な方が来ていて、泣きながらお参りされている方とか、仲の良さそうなカップルだったりとか、歩くのも大変そうな高齢の方とか、人生いろいろあるんだな、と思わされます。

そういう意味では、山梨に限った場所ではありませんが、やはり夜中のドンキホーテとかも好きなんです。若い方達とか外国の方とか、やはり色んな人が来ていて、みんな楽しそうで、それぞれの人生があつて、面白いなど。

そんな人達を見て、自分も頑張らなくちゃな、とエネルギーを貰ったりします。

お店では、甲府の中心街にある焼き鳥屋さんの「A」。夜遅くにどうしても焼き鳥が食べたくなって行ったんですが、その頃チームの調子が良くなって、

酔っぱらった別のお客さんに絡まれたんです。そうしたら店主が物凄く良い人で、初めて行ったお店だったのですけど、「うちのお客さんに失礼だから帰ってくれ」って、追い帰してくれて。

そんな、人から結果でジャッジされる仕事なので、先ほども孤独と言いましたけど、実は家と会社との往復で、あまり他のところに行つたことがないんですよ。

ただ、社長に就任して、そこは少し生活が変わりましたけどね。経済界の方々との交流もありますし。

VF甲府は、地域密着型のクラブであると言われますし、実際にそうだと思います。

山梨県、または甲府市という地方に存在するチームであることを、どのようにお考えになっておられますか？

これは本当に、誇らしいですね。山梨の皆さんに育ていただいたクラブなので。

地域からこんなに支えて貰っているクラブは、日本中を見回しても他にはないです。

VF甲府のノウハウは、他のチームのスタッフの方も、よく視察や研究に來られますよ。

海野さん(海野一幸元最高顧問)はじめ、歴代の経営者の方々がやってこられたことが間違っていないのだと思います。

私はVF甲府の中期計画で、「Connect and Reskill (コネクト アンド リスキル)」という理念を掲げました。コネクト、地域や人々をつないで、そしてリスキル時代に合わせて学び直す。それが最終的に、「Beyond the Football Club (フットボールクラブ)」について、単なるフットボールクラブを超え、地域や人々をつなぐ存在となっていく、そして新しいものを生み出していく、そのような役目を我々が担っていきたくて考えています。

地域の皆さんや行政の皆さんにどんどん関わって

いただく、それが地方クラブの在るべき姿ではないかなと思っていますので、VF甲府の存在がこれからも他チームのモデルであり続けるような、そのようなクラブにしていきたいです。

VF甲府はある意味、社会インフラに近い部分があつて、必要とされる方もいれば、あまり必要とされない方もいらつしやいますが、そこに「ある」ことが重要です。

天皇杯の優勝を経て、多くの方を一つにできる力を持った存在であることを再確認させていただくとともに、「勝つ」ことの素晴らしさという重要性を、改めて考えさせられる機会ともなりましたので、そのような部分を、これからのクラブづくりに反映させていきたいと考えています。

話は変わりますが、先ほど読者プレゼント用のサインをいただいたとき、「希望」という言葉をお書きになっておりましたが、あれは社長の座右の銘のようなものですか？

そうですね、「希望」はとても好きな言葉で、よく使っていますが、座右の銘というと、駒澤大学サッカー部の選手だったころ、当時の監督からよく言われた、「随所作主(ずいしょさしゅ)」という言葉です。

仏教の教えで、臨済宗の始祖である慧照禪師の言葉ですが、「どこへ行ったとしても、そこになくはならない人になれ」という意味で監督から言われ、今でも自分の規範としています。

また、「希望」については、イスラエルの国歌である「The Hope(ハテイクヴァ)」が好きで。

すごく暗い曲なのですが、辛い日々が続いていても、明日は良い日になるかもしれない、希望に目を向けていこうという、そんな内容が良いな、と思っ

サッカーって、天皇杯の決勝がそうでしたけど、オミ(山本英臣選手)がPKをとられて、一瞬にして、みんな絶望ですよ。これで終わったな、と。でも、そんななかでも、相手がPKを蹴る瞬間まで、河ちゃん(河田晃兵選手)が防いでくれるかもしれないって、僅かな時間の間に、絶望から希望が生まれるんです。それがPKを止めた瞬間に更に歓喜が変わる…もう、めまぐるしくスイッチが切り替わっていきます。

その心が切り替わっていく瞬間、それが人間にとって重要なかなと思っ

では、社長の、GMや監督としての、サッカー哲学とはどのようなものでしょうか？

1995年に会社(NTT関東)からオランダのヤックス・アムステルダム(オランダプロリーグであるエールディヴィジに所属する強豪サッカークラブ)に留学させていただいたのですが、そこで学んだ「TIPS(テクニク、インテリジェンス、パーソナリティ、スピード)」というキーワードを大事にしています。

他には、アヤックスもそうですが、やはり育成を大事にしていくこと、それから戦うメンタリティ、いかに勝利に貪欲になれるかですね。

また、武田信玄公がそうですが、生き方や戦い方に美学があつたと思うんです。人を大切に、地域を大切にされた方。VF甲府も山梨にあつて、郷土の英雄である信玄公のDNAを持ち合わせた、そのようなクラブにしたいですね。

社長は、駒澤大学やNTT関東で、選手としても活躍されました。

現役当時の社長は、どのようなプレーヤーでしたか？

私は、ガッツで頑張るだけのDF(ディフェンダー)でしたね。

当時ひとつ下で、今泉さん(現VF甲府取締役、韮崎高校で1983年高校選手権準優勝)が駒澤に居たんですけど、彼はエレガントでスキルもあつて。でも私はそういった、創造性のあるプレーヤーではなかったです。

私は埼玉県の高校出身で、国体で準優勝もして居んですけど、埼玉のDFで、固いつていうか、1対1を頑張つて、ヘディングも頑張つてみたい、見る方からすると全然面白くない選手でした。

だから私は、自分を否定していますね。私みたいな選手を作りたくない。

そんな選手でしたから、オランダ留学、当時のアヤックスは衝撃的でした。

サッカー選手は芸術家だから、試合のキャンバスで、好きなように絵を描くんだぞ、と言われて。

オランダは多様な人種の集まった国ですから、教育でもフットボールでも、個性を大事にする。

だからいまVF甲府では、私と森さん(強化部スカウト)は、そういう個性、特徴のある選手を獲ろうと。

例えば稲垣祥(現名古屋グランパス)の持久力。技術はそれほど無いけど、彼は走り続けられる。小出悠太(現ベガルタ仙台)だったらインターセプト、伊東純也(現スタッド・ランス)のスピードとか。

そういう意味で、現在在籍する小林岩魚(甲府一高OB)にも、特別な左足があります。

そういうえば、当時の駒澤大学には、今泉取締役とともに韮高全盛期のメンバーだった山本健二さんも在籍しておられましたね。

山本さんは2歳下でしたが、入学して早くから試合に出っていたので、かなり一緒にプレーしました。また、彼とは後に1年だけでしたが、NTT関東のサッカー部でも一緒にあったんですよ。

山本さんは2歳下でしたが、入学して早くから試合に出っていたので、かなり一緒にプレーしました。また、彼とは後に1年だけでしたが、NTT関東のサッカー部でも一緒にあったんですよ。

さて今シーズン、VF甲府はリーグでこそ順位は低迷しましたが天皇杯ではJ1チームを3回戦から決勝まで5連続で破り、「史上最大の下剋上」とも言われました。

この勝因は、どこにあるとお考えでしょうか？

勝因は、大きくは2つあると考えています。

まず一つめは、選手達の側からいうと、リーグ戦の低迷による申し訳ないという気持ちを、なんとか天皇杯で晴らしたいと考えて、彼らの自主性や主体性につながったこと。

二つめ、指導者の側からは、天皇杯という一発勝負の場で、戦術的に戦い方をはっきりさせられたこと。

また、実は天皇杯決勝の前に、吉田監督には来期の契約を結ばないことを伝えていまして、彼の、このままでは終われない、勝つて終わりたい、という強い気持ち、それらが良い方向につながったのだと思います。

ある意味、カタールW杯での日本代表の快進撃とも重なる部分がありますよね。3バックのフォーメーションも同様ですし、ドイツ戦での浅野選手のゴールは、天皇杯準決勝での宮崎選手と浦上選手によるスーパープレーを彷彿とさせました。

このあたりはどうお思いですか？

森保二日本代表監督はある意味、VF甲府の戦い方を参考にしている部分はあると思います(笑)

J1在籍当時、ポイチ(森保監督)率いるサンフレッチェ広島とも戦いましたが、対戦成績も悪くなくなりました。

天皇杯決勝の試合前にも、視察に来ていたポイチと話しましたが、「佐久間さん、今日も甲府のサッカーがハマるんじゃないですか？」なんて言っていましたね。

私は今年、小瀬で殆どのホーム戦を観戦して、いくつかのアウェー戦にも行かせていただきました。その感想からいうと、勝ち試合はもちろんです、負け試合の多くでも、選手達は決して悪いプレーはしていません。勝つていても全く不思議でないような試合内容でした。現に、シュート数や被シュート数などのスタッツはリーグ内でも決して悪くない数字だそうですね。

この内容と結果のミスマッチについては、どのようにお考えですか？

やはり、先ほども言った個人の能力、スピードとかシュート力の部分がひとつと、あとは、押し込んでいくときに長いカウンターを受けての失点が多かったんです。カウンターアタックに対して勇気を持ってコンパクトな守備体型をとっていくことを、(戦術的に)もっと強調できなかったのかな、と思っています。

ただ当時、吉田監督ともそういう話はしていたんですが、センターバックの選手の特長から、難しかった部分はあったと思います。

ですので、2023シーズンへの補強も、そういった部分をカバーしていきます。

先日、塚田雄二さん以来約20年振りの山梨県出身監督となる、篠田善之さんが就任されました。篠田監督には2023シーズン、どのようなチーム作りや戦い方を期待しておられますか？

篠田監督に対しては、3バックでも4バックでも、監督が選ぶ、どのような戦術にも対応できるチーム編成を進めてきました。彼はちよつと城福さん(城福浩現東京ヴェルディ監督)に近くて、モチベーターとしての能力が高く、そのパッションが持ち味。選手に対するシンプルな指導力に期待をしています。また彼は、ロティーナやフィツカデンティほか、何人

もの優秀な外国人監督の下でコーチを経験してきていますので、そのエッセンスをチームに落とし込んで欲しいとも考えています。

悲願のJ1復帰を達成するため、VF甲府に必要なものはズバリ何でしょうか？

リーグ戦を制していくにあたっては、粘り強く戦い、先制点を与えない、安定した守備力と、カウンターの攻撃力ですね。

それに加え、チームの一体感も非常に重要と考えています。今年には多くの選手が残ってくれますので、そこは期待できると思います。

ところで今、VF甲府には甲府一高初のJ1リーガーである小林岩魚選手が在籍されています。社長は、岩魚選手をどのようなプレーヤーとして捉えておられますか？



あの速くて低いクロスは本当に凄くて、多分J2ナンバーワン。

正確にスペースに蹴れるし、FW(フォワード)が受けやすい。

日本中探してもほとんどいない、特別な左足です。性格も真面目で、頭が良い。自己分析ができる、成功する選手の資質を持っています。

彼には、本当に期待していますが、あとは、もうひとつ殻を破っていくために、自分に自信をつけて、良い意味でのエゴイストになって貰いたいです。

そんな選手ですから、いま恐れているのは、彼の流出。どこのチームでも、左利きでクロスを上げられる選手を探しますから、他に獲られないような評価をしています。

今シーズン前半、岩魚選手は左サイドからの高速クロスを武器として活躍されましたが、8月に大怪我を負って離脱してしまいました。チームとしてはかなり厳しいかと思えます。ちよつと嫌な思い出かもしれませんが、当時の心境をお聞かせください。

私もですが、吉田さん(吉田達磨前監督)は本当にシヨックだったと思います。

開幕から苦戦して、岩魚が出てきたことでチームのバランスのとり方が見つかったところが、彼の離脱でそのバランスが崩れてしまい、計算が狂ってしまった。

岩魚選手は、2023シーズンも契約を更新されてVFA甲府でプレーされます。

今後、岩魚選手にどのような期待をお持ちですか？
うちの中心選手として、攻守に頑張つて欲しい。

また、ただ上手い速いではなく、地元出身選手として、地域の期待を背負いながら、責任感を持つてやつて貰いたいです。

何かを背負つて生きることが、強さにつながってくるのかなと思いますから。

そういう意味で、いま一番いろんなものを背負つてい選手が、山本英臣です。

彼は本当に長く、批判も受けたりしながらやつてきています。

岩魚君にも、ぜひそういった選手になって貰いたいですね。

ただ一方では、堀米勇輝(現サガン鳥栖)のように、ヴァンフォーレを越えてもつと飛躍していく、そういう存在にもなつて欲しいとも思っています。

今日は12月26日ですが、あと10日もすると2023シーズンに向けてチームが動き出します。
2023年シーズンに向けての、社長の抱負を教えてくださいなだけばと思えます。

2023シーズンは、ジュビロ磐田と清水エスパルスという古豪2チームが落ちてきて、J2リーグも厳しくなつてきますが、そのなかでも年間を通して常に、J1に挑戦できる順位をキープし続けたいです。

また、天皇杯はディフェンディングチャンピオンとして、ACLは日本の代表として出場することになりますので、それらの大会でも、その名に恥じない、責任ある戦いをしたいと思います。

ありがとうございます。
では最後に何か、読者の方々へのメッセージをいただけますでしょうか。

いまはコロナ禍もあり、どこのチームも観客動員に苦戦していますが、VFA甲府も同様です。

ぜひ一度、スタジアムに足をお運びいただいで、1試合でも間近でご覧いただき、サッカーの楽しさ、応援することの面白さを感じていただければ有難いと思いますので、よろしくお願ひいたします。

あと、ACLの3試合の会場はまだ決定してはいませんが、東京都内での開催を検討しています。ACLという場で、世界に甲府や山梨を発信していきたいですし、また、ぜひ東京近郊にいらつしやる一高OBの方には、皆様でスタジアムにいらしていただいで、その場を旧交を温める場所にしていただけたら、とも思っています。

本日はどうもありがとうございました。
2023シーズンのJリーグやACLでの、VFA甲府の躍進を楽しみにしております。

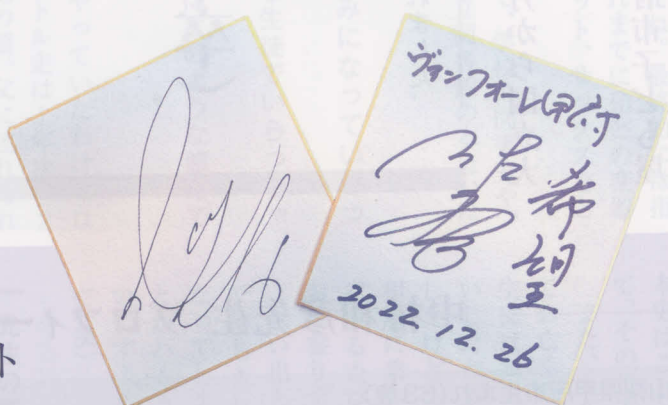
インタビュアー：白井礼史(平成29年卒)
写真撮影：高野芳太朗(平成29年卒)



ヴァンフォーレ甲府の歴史

1965年	第1回全国社会人大会への出場を機に、甲府一高OBチーム「鶴城クラブ」を母体に他校OB選手も加えて、川手良萬氏(旧制甲府中学OB)により「甲府サッカークラブ(以下、甲府クラブ)」が創設される。
1967年	甲府クラブが関東サッカーリーグに参加。
1969年	甲府クラブが関東サッカーリーグ初制覇、全国社会人大会でも初優勝。
1972年	甲府クラブが日本リーグ(JSL)2部に参入。
1995年	チーム名を「ヴァンフォーレ甲府(以下、VF甲府)」に変更。
1997年	運営法人「株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ」が発足。
1998年	VF甲府のJリーグ加盟申請が承認される。
1999年	Jリーグディビジョン2(J2リーグ)が、VF甲府を含めた10チームでスタート。
2000年	チーム存続危機に県内有志による「VF甲府の存続を求める会」が発足。
2003年	現在もチームの中心選手として活躍する山本英臣選手が入団。
2005年	J2リーグで3位となり、入替戦で柏レイソルを破り、J1初昇格を達成。
2006年	初のJ1参戦、15位で残留を決める。今も愛されるマスコット「ヴァンくん」が誕生。
2007年	J1リーグ17位でJ2へ降格。
2008年	佐久間悟氏(現代表取締役社長)がゼネラルマネージャーに就任。
2010年	後に日本代表にも選出されるハーフナー・マイク選手が入団、J2リーグ2位でJ1復帰を決める。
2011年	J1リーグ16位でJ2へ降格。
2012年	24戦無敗のJ2記録を作るなど圧倒的な内容でJ2リーグ初制覇、J1復帰を決める。
2014年	豪雪の影響により開幕戦を国立競技場で開催。過去最高のJ1リーグ13位を達成。
2015年	後に日本代表の主力としてワールドカップカタール大会で活躍する伊東純也選手が入団。
2017年	J1リーグ16位でJ2へ降格。
2019年	甲府一高OB初のJリーガー、小林岩魚選手が入団。
2022年	第102回全日本サッカー選手権大会決勝戦で、サンフレッチェ広島を延長PK戦の末に破り、天皇杯初制覇。
2023年	甲府市出身の篠田善之監督が就任、FUJIFILM SUPER CUPに天皇杯王者として初出場。

読者プレゼント



インタビューにご協力いただいた佐久間悟社長、小林岩魚選手の直筆ミニサイン色紙を、それぞれ2名様にプレゼントいたします。

官製ハガキまたは切手を貼ったハガキにご住所・ご氏名・お電話番号を記入のうえ、下の応募先へ令和5年7月31日(月)までにお送りください。

なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

応募先

〒400-0026 甲府市塩部3-1-24 (株)高野塗装店内
甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会 記念誌部会 読者プレゼント係行



山梨大学 新学長 中村和彦先生（昭和53年卒） インタビュー

※本インタビューは、2023年1月に行われました。

甲府二高同窓生の中村和彦先生（昭和53年卒）が、この4月から国立大学法人山梨大学の新学長に就任されました。

中村先生は、あの大ヒット曲『パプリカ』プロジェクトや、甲府市子ども屋内運動遊び場『おしろらんど』の監修、中央教育審議会専門委員として学習指導要領の作成に携わるなど、いま最も注目されている教育者・研究者のひとりです。

中村和彦先生 プロフィール

- 1960年3月、山梨県甲府市生まれ（63歳）。
- 山梨大学教育学部教授、同教育学部長・大学院教育学研究科長、同理事・副学長を経て、2023年4月より国立大学法人山梨大学学長に就任。
- 専門は教育学、発育発達学。
- 甲府第一高等学校卒業、山梨大学教育学部卒業、筑波大学大学院修了。
- 日本トップリーグ連携機構常務理事、(財)日本レクリエーション協会理事。
- 日本体育協会日本スポーツ少年団功労賞、山梨県体育協会功労賞、日本発育発達学会優秀研究論文賞等を受賞。
- NHK『おかあさんといっしょ』の体操「ブンバ・ポーン」、米津玄師（よねづけんし）氏が作詞作曲した「パプリカ」、YBS「コロナに負けるなダンス・ゴリラッパンダ」、甲府市子ども屋内運動遊び場『おしろらんど』等を監修。
- 文部科学省中央教育審議会教育課程部会専門委員会委員、(財)日本オリンピック委員会ゴールドプラン専門委員会委員、山梨県高等学校審議会会長も務めた。

中村先生、本日はどうぞよろしくお願い致します。
 まずは、山梨大学新学長へのご就任決定、おめでとうございます。医学部以外からの選出は初めてのことでそうですね。

はい、20年前に当時の山梨大学と山梨医科大学が統合して以来、4代続いて医学部から学長が出ていました。

私はこれまで、教育学部長を6年間、理事・副学長を2年間の、計8年間、山梨大学の運営に携わってまいりました。4月からは学長として頑張っていきたいと思っています。

さて、先生の子どもの頃のお話から伺っていきなさいと思います。
 まず、小さいころは、どんなお子さんでしたか？

私は甲府市青沼、現在の総合市民会館の近くで生まれました。ひとりっ子で、小さい頃は身体が弱くて、幼児期は、東京の病院に入院していました。しかし、病気が治ってからは、よく遊んでいた子どもだったと思います。今の遊亀公園や、近所の空き地や釣り堀などが遊び場でした。
 また、小さい頃は近所の教室に通って、ピアノを習っていましたね。

今でもピアノは弾きになるんですか？

いえ、今はほとんど触りませんが、最近、またやってみようかなって思ってるんです。
 今は通信教育もあって、面白そうなんです。

では、小学校や中学校時代はどうでしたか？

小学校では器楽クラブ、中学校では吹奏楽部に入っていました。甲府南中のブラスバンドは県内のコンクールで優勝の常連校でした。練習は厳しく、土日も殆ど部活でしたね。最終的には指揮者をさせていただいて、それまでに殆どの楽器を経験しましたが、トランペット、サクソスなどの管楽器が好きでしたね。

また、本が大好きだったので、学校の図書室や、当時遊亀公園の中にあつた市立図書館の本は、ほぼ全部読破したと思います。

凄いい、そんなに本をお読みになつていらつしゃつたんですね。

さて、一高時代は、どんな生徒でいらつしゃいましたか？

一高生としての学生生活はどのような感じでしたか？

それまで特にスポーツをやっていたわけではないんですが、春の1万メートル走は1年次・2年次と優勝しました。小学生の頃、父に連れられてよく歩いたり走ったりしていたことと、中学時代の吹奏楽部で心肺を鍛えられたことによるのだと思います。そんなことから、友達に誘われて一年の途中から陸上部に入部しました。

一高での生活は、もう、楽しかったのひとことですね。なんというか、今より自由だった。先生方も、型破りでみんな特色ある方々で・・・本当に面白かったです。

例えば、大木先生って方がいらつしゃって、毎日一日中、花壇の手入れをされてまして。私たちがはてつきり用務員さんかと思っていたら、化学の

授業になつたら急に、窓から入ってきたんです。麦わら帽と長靴のままで(笑)

日本史の中島先生は、『きけわだつみのこえ(学徒動員兵の遺稿集)』だけを一年間ずっと読ませるんです。教科書なんか使わなかったです。日本史はこれが全てを語っている、とおっしゃって、その日本の歴史を語る熱さに感動しました。

また、1988年8月8日に起こったバス事故でお亡くなりになりましたが、体育の澤登龍雄先生には本当にお世話になりました。初めてお会いしたときは凄く怒られて、怖い人だなと思いましたが、高校から大学にかけて、ずっと様々な相談に乗っていただき、大学院時代も、山梨に帰省するたびにご自宅に伺っていました。今でもお墓参りをさせていただいています。

思い出としては、毎日、お腹が減って昼休みまで待ちきれず、午前中の休み時間に、今は無くなってしまった日新ホールに行つては、ラーメンとかハムカツ井とかを食べる。今ではあり得ないですよ、そんな時間に作つて出してくれるつて(笑)

先生の同期、昭和53年卒のOBの方々には、中村先生だけでなく、甲府市長や甲府市教育長、アニメ制作会社社長など、様々な分野でご成功された方が多くいらつしゃいます。
 当時から何か特別なところがある学年だったのでしょうか？

そうですね、特に何か目立っていたということはない気がしますが、強いて言うくと、遊び惚けてました(笑) まあ、学園祭なんかは、みんなひとつに団結して燃えましたね。クラスや学年のまとまりはあつた方かもしれません。

特集2 interview



部活動は陸上部だったとのことですが、種目は何をなさっておられましたか？

一高時代は、中長距離走に打ち込みまして、進学した山梨大学でも陸上部に入りました。ただ、大学では跳躍種目、特に幅跳びに転向しました。

当時の一高陸上部は、先輩方が、とても強かつ

たんです。投てき種目に凄い方達がいて。その先輩方にはすごく可愛がっていただいて、部活動も本当に楽しかったですね。

では、強行遠足での思い出はどんなものがありますか？

小諸へは、2年次と3年次の2回行きました。

実は、1年生のときは1万メートル走で優勝したこともあって鳴り物入りで、途中、海ノ口まで断トツ、トップで走っていたんです。ところが、その海ノ口でガス欠になってしまったというか、完全にエネルギー切れで倒れてしまいました、リタイヤになってしまいました。気が付いたら病院のベッドの上で、三日間入院しました(笑)

その反省から、2年生では無理をせず、登りの野辺山まではゆっくり行かまして、そこから走り最後、3年生のときは、確か7位くらいでゴールしたと思います。

あとは、白田のおばちゃんをはじめ周りの方々や、OBOGの方々には、サポートや応援など、大変お世話になりました。

さて、一高を卒業されて、山梨大学の教育学部にお入りになりましたが、教育者を目指されたきっかけは何でしょうか？

また、保健体育を専攻されたご理由は何でしょうか？

実は大学入学当初は、今の専門のような保健体育や運動遊びではなく、健康分野、環境問題を学びたかったんです。中学時代から、水俣病などの公害や環境問題に非常に興味を持ち、石牟礼道子の『苦海浄土』やレイチェル・カーソンの『沈黙の春』を読んで感動していました。

高校のときは、神田の古本屋に通っては一日中、環境問題の本を読み漁ったり、東京大学の自主公開講座を受けに行ったりしていました。

教育者を目指した理由は、公害や環境問題を素材にして、「幸せな生き方とは何か」を教育をしたいと思ったからです。

では今のような、子どもの発育発達、遊びや運動に関する研究をなさりはじめたきっかけは何ですか？

そういつた分野に興味を持ったのは、大学1年の終わりに、当時、中京大学にいらつしやった、宮丸凱史先生の論文を読んだことがきっかけでした。こんなものの考え方をする人がいるのかと。

一般的に運動って、距離とかタイムとか、結果でみるじゃないですか。でも、宮丸先生の主張は、その結果ありきではなく、良い動きをすることが、結果に結びつく。結果を教えることはできないけれど、動きを教えることはできる、ということでした。

それから、宮丸先生の話が聞きたくて、名古屋まで何回か押しかけてお世話になりましたね。学会にも着いて行つたり。その後、先生がご自分の母校である筑波大学(旧東京教育大学)へ移られたので、私も追いかけて、筑波大学の大学院に入りました。

宮丸先生の考えは、子どもの動きをつくるのは指導ではなく遊びなんだ、というもので、色んな遊びをするなかで、色んな動きを経験して、人の真似をしながら段々上手になっていく。そこにあまり大人が介入しない方が良く、というものでした。

では、いまの中村先生の考え方の基礎みたいなものがまさに、そこから来ていらつしやるんですね。

そうですね。ただ当時、宮丸先生は大学を移つてすぐでしたので、大学院生を指導されることが

できなかつたんです。

困っていたら、宮丸先生と、私の山梨大学時代の恩師の小林慧歩先生の共通の知人である、森昭三先生が私を引き受けてくださったんです。

森先生のところにご挨拶に行きましたら、先生から宮丸先生のところの勉強だけでなく、自分のところの勉強もしなさいと指導を受けました。それから、昼間は森先生のもとで学校保健や健康教育の勉強し、夜になったら宮丸先生の部屋に行き、夜中まで発育発達の勉強をしました。この大学院時代の経験は、その後の私の研究や教育に非常に役立ちました。

私の修士論文のテーマも、宮丸先生と森先生が話し合つて、両方の分野に関係あるものを選んでいただきました。『幼児期の発達課題』というものです。筑波大学の近くの保育園や幼稚園に通つて、カメラを回しながらデータをとつて、動きが変わつていく様子を分析しました。

子どもの発育発達と運動との関連性の研究が面白くて、どんどのめり込んでいきましたね。大学院を出て、文部技官(準研究員)として筑波大学に残りましたが、3年経つた頃、山梨大学のポストが空いたので応募し、平成元年4月に母校山梨大学に採用されました。

それからずっと山梨大学に勤めています。他の大学に誘われたこともあつたんですけど、居心地が良かったんでしようね。また、いろんな人とのつながりにも恵まれて、助けられました。

先生が子どもさんの発達にとつて一番大切だとお考えになつていらっしゃることは何でしょうか？

子どもは無限の可能性を持っています。

運動でもなんでも、無理やりやらせるのではなく、子どもに興味を持たせることが大切だと思います。本来、子どもが持っている可能性を決めないこと。

世界的にみると、大人が子どもにああしろ、こうしろ、と言つてがんじがらめにしてしまつていく傾向が強いのが日本で、そこがこの国の子育て・教育の良いところだと思っています。

先生は、2018年にNHKの応援ソングプロジェクトに関わられ、米津玄師さん作詞作曲の名曲、「パプリカ」のダンスを監修されました。

曲は驚異的な大ヒットを記録し、ダンスも世界中の人たちに愛されるものとなりましたが、このプロジェクトに関わられたきっかけは何でしたか？

2002年にNHKが私の研究に興味を持たれたことから、知り合いの先生を通してお誘いをいただいて、教育番組「からだであそぼ」の監修をしました。

その後、長寿番組「おかあさんといっしょ」の体操、「ブンバ・ポーン」も監修させていただきました。そんな縁からですね。

「パプリカ」では、私と、作詞作曲の米津さんとあと、振付けを担当してくれた辻本知彦さん、辻本さんはシルク・ドゥ・ソレイユの総監督もやられているのですが、その3人で組みました。私は全体を監修して、こういう動きを入れた方が良くとか、ここの音楽はこうして欲しいとか、そんなことをやり取りしながら作っていました。

歌とダンスをやってくれたFoorin(フーリン)も、みんな凄く良い子たちで、とても良い

ものになりました。

また、2021年には、同じくNHKさんの企画によるY O A S O B Iさんの楽曲、「ツバメ」のダンス監修もさせていただいています。

その「パブリカ」や「ブンバ・ポーン」、YBSで放送された「ゴリラッパンダ」など、先生監修の体操やダンスは、老若男女を問わず多くの方に親しまれてきました。

これほど愛されている要因は、どこにあると考えておられますか？

ひとつには無理をしないこと、見本のとおりにならなくても良かったり、子どもだけでなくお年寄りが座ったままできるような振付けを考えた



り、汎用性があるところでしょうか。決まりどおりに動くというよりも、身体を動かすこと自体が楽しいと感じていただくためです。

また、ダンスのなかに、あえて普段の生活に無いような違った動きを入れて、最初は上手くできなかった動きが、段々と上手くできるようになる面白さや喜びを味わえる、そんなところだと思います。

また、「パブリカ」の辻本さんや、「ブンバ・ポーン」「ゴリラッパンダ」の振付けをしてくれたたにぞうさん、彼らがやはり上手ですね。お互いに気心も知れているので、直して欲しいところなども言えますし。そういう所でも、周りの方々には恵まれたと思っています。

さて、先生は来年度から山梨大学の学長になりになります。

これから梨大をどのような学校にしていけるのか、そのビジョンを教えてくださいませんか？

山梨大学のキャッチフレーズは、「地域の中核・世界の人材」です。ローカルとグローバル、両方が大事なんです。これからの地方大学は、いかに地域社会と強いつながりをつくり、その成果を国内外に発信していくかが、非常に重要です。

クリーンエネルギー、先端脳科学、発生工学、ワイン科学といった、山梨大学の強みを更に伸ばしながら、新たな強み分野を開拓し、地域のニーズを汲み取って人材を育成していこうと思います。

また高大接続連携として、山梨大学の先生が例えば一高に行くと、教員になりたいという生徒たちの前で、学んでいる立場と学ばせる立場の違いとか、大学ではこんな面白いことをやっている

か、伝えていくようなこともやっていきたいです。梨大と一高は距離も近いですし、前から連携事業もやってきていますからね。

地域連携プラットフォームも大事です。山梨大学が音頭をとって、山梨県内の他大学・自治体・企業・金融などいろんな方が持続的に関わっていくことができる、プラットフォームをつくってきたいと考えています。

そして地域にもっと溶け込んでいって、住民の方ももっと自由に出入りできる、そういう本来のユニバーシティを目指していきたいと思っています。

また、推薦入学の学生を増やしたいと考えています。実は、入試の成績と入学後の成績には、あまり相関関係が無いことが判っているんです。それよりもやる気が大切です。入学前教育といって、大学入学前にもっと意欲が高まるような働きかけをしたいと考えます。

とにかく、山梨大学に入学して良かったな、卒業するために頑張ったな、といわれる大学にしたいと考えています。

先生はとても早起きで、毎朝5時に起床され、出勤もすごく早い時間にされていると伺っています。

これは、若いころからずっと続けてこられたのですか？

昔はずっと、毎朝6時台には大学に行っていました。今は7時台ですけど。朝は、新聞読んだり雑誌を読んだり、コーヒーを飲んだり、余裕を持って一日をスタートしたいと思っています。

寝るのも早いですけどね。夜9時とかに寝ちゃうときもあります。

お酒が好きなので、呑んだ日の翌日はダメですが、最近ではコロナで二次会も無いから、飲み会の日でも8時台には家に帰ってますすし(笑)

また、先生はワインをすごく嗜まれると聞いています。

何かワインに対する拘りっておありだったりするのでしょうか？

はい、ワイン、なかでも白が好きなんです。特に「シャブリ」。シャルドネという品種から作るんですけど、軽くて、香りが良くて、あまり寝かせない。行きつけのイタリアンレストランでも、いつも注文します。

最近では、行きますよって電話すると、何も言わないでもシャブリを用意してくれています(笑)

でも実は最近、日本酒党にもなりつつあります。日本酒もいろんな種類があって、面白い。

まあつまり、お酒は大好きです(笑)

そういうえば、ご趣味とかは何がありますか？

料理が大好きなんです。もちろん、自分で作ります。普段は忙しくてなかなかできませんが、数少ない休みの日は、実家の父母たちも含め家族7人分を作ります。

もう、食材もいっぱい買い込んで、出汁からこだわって作って。凝りすぎて、家族には「時間の無駄」とか「面倒くさい」とか言われますが(笑)

ちなみに最近では、酸辣湯(サンラータン)や、いろんなパスタを作るのに凝ってます。料理って、完璧に作れるってことは無いんですけど、作っているうちに段々上手くなってきたり、効率良くなってきたり、それが面白い。

でも、作ってるうちに満足しちゃって、自分ではそんなに食べなかつたりします(笑)

先生は、甲府で生まれ育って、若いころ一度外に出られ、また甲府に戻って来られました。生まれ育った街である甲府、そして山梨については、どのような思いを持たれていますか？

そうですね、昔と比べて、子どもの遊ぶ場が無くなって、子どもの笑い声が消えて、子どもたちの元気が無くなってしまったと、感じています。やはり、子どもの元気は大人の元気につながります。

なんとかして、山梨、甲府の魅力を発揮させていきたいと思っています。

そういう意味で、いま樋口甲府市長が進められる、甲府市中心部の再整備には大賛成です。

山梨や甲府って良いところだと思いますよ。

晴れた日の富士山とか南アルプスとか甲斐駒の景色、他にはちょっとないですから。

最後に、一高関係者へのメッセージを何かいだけますか？

まずはOB OGの方々へ。

良い意味での一高生としての誇りを持って、同級生・先輩・後輩のつながりを大事にしながら、一高OB OGならではの幅広いネットワークを活用して、山梨を元気にしていって欲しいですね。

現役生の後輩達にも一言、お願いします。

高校時代に、ただ勉強や部活を淡々とやっていくだけでなく、自分の夢やビジョンを持って欲しい

いです。仮にその後、その夢やビジョンが変わっても、その夢やビジョンを抱いていた経験は変わりません。絶対に将来の役に立ちます。あとはぜひ、一高の仲間を大事にしていって欲しいですね。

本日は長い時間お付き合いをいただきまして、どうもありがとうございました。

先生の今後の、益々のご活躍をお祈りしております。

インタビューアー：白井礼史(平成29年卒)

写真撮影：小川勝生(平成29年卒)



茶房 どんぐり…………… 52
 さわ淵…………… 47
 さわらび…………… 61
 (株)サンテック…………… 51
 (株)山典…………… 67
 山日YBSグループ…………… 4
 (株)サンルート…………… 59
 (株)三和リース…………… 46
 CPサロソングイヴァース…………… 55
 (株)ジーベック…………… 17
 (株)JMK MARUFUKU…………… 67
 塩島会計事務所…………… 56
 シオジマ歯科医院…………… 63
 (有)塩部モーターズ…………… 55
 歯科若尾…………… 58
 敷島カントリー倶楽部…………… 44
 敷島金属工業(株)…………… 64
 寿司・割烹 治作鮨…………… 49
 (株)システムインナカゴミ…………… 63
 (株)シップス…………… 63
 (株)シミズ貴石…………… 65
 清水工機(株)…………… 61
 シムラ産業(株)…………… 43
 (株)ジャパンメディカル…………… 61
 ジャルダンアッシュ…………… 61
 十五所神社…………… 48
 順聖クリニック…………… 58
 (株)SHOE…………… 50
 (株)少國民社…………… 26
 (株)昇仙峡カントリークラブ…………… 62
 昇仙峡 三溪園…………… 54
 昭和建設工業(株)…………… 44
 昭和総合警備保障(株)…………… 59
 昭和和中歯科医院…………… 60
 (株)昭和鉄工…………… 42
 (株)白根アルミ…………… 53
 (株)白根ベニヤ…………… 52
 (株)シンゲン…………… 57
 新藤歯科医院…………… 66

信木工業…………… 46
 (株)新和運輸…………… 58
 (有)水質メンテナンススクア…………… 20
 (有)スーパータ陽…………… 63
 (有)末木保険サービス…………… 54
 (株)スギタ建工…………… 55
 杉田小児科医院…………… 44
 鈴木歯科医院…………… 44
 鈴木製菓(株)…………… 64
 (医)すずき会 鈴木・野村泌尿器科クリニック…………… 29
 鈴健興業(株)…………… 66
 (有)スタジオキョク…………… 45
 砂田会計事務所…………… 54
 せ…………… 45
 聖愛会…………… 57
 (学)聖愛幼稚園…………… 62
 積水ハウス(株)…………… 59
 セブイレブン甲府伊勢一丁目店…………… 12
 (有)千秋舎…………… 51
 (株)仙洞田板金工業…………… 60
 (株)千里水産…………… 53
 そ…………… 63
 創夢(株)…………… 60
 た…………… 50
 第一観光(株)…………… 56
 大黒屋…………… 64
 (株)大成電気…………… 51
 (株)ダイタ…………… 33
 大丸商事(株)…………… 16
 太陽建機レンタル(株)…………… 34
 太陽社…………… 43
 (株)太陽設計…………… 60
 大洋薬品(株)…………… 65
 大洋塗装店…………… 55
 (株)高野塗装店…………… 9
 タカハタプレジジョン(株)…………… 3
 滝田建材(株)…………… 66
 (医)悠紀会 武井医院…………… 47
 (医)武川会…………… 38

(株)武田広告社…………… 23
 武田神社…………… 68
 (株)たけまる…………… 16
 (有)立建…………… 67
 (株)タナアミスポーツ…………… 57
 (株)田中造園…………… 54
 (医)アウゲン 田辺眼科…………… 43
 (株)タンザワHD「甲州夢小路」…………… 裏表紙
 チェルト…………… 67
 千野建材(株)…………… 56
 中央コンクリート工業(株)…………… 58
 中央ベニヤ(株)…………… 53
 つ…………… 49
 (株)土屋工業…………… 53
 (有)ツルタ設備…………… 53
 鶴田電気(株)…………… 57
 ツルヤ化成工業(株)…………… 53
 て…………… 68
 (株)テレビ山梨…………… 46
 (株)テニヨ武田…………… 68
 と…………… 66
 (株)東京…………… 61
 東京鮪…………… 66
 東京地方税理士会・甲府支部日新会…………… 2
 (株)東和…………… 3
 (株)常盤ホテル…………… 41
 (株)戸栗鉄構電設…………… 33
 (有)都市営繕…………… 61
 (有)戸島造園興業…………… 62
 (株)トミオカテニス…………… 53
 富竹歯科医院…………… 51
 (有)トリオ印刷…………… 56
 とんかつ甲州直治朗…………… 52
 な…………… 51
 (株)内外…………… 50
 内藤歯科医院…………… 61
 (株)内藤乳販…………… 68
 (株)内藤ハウス…………… 17
 中込建設工業(株)…………… 43

中澤経理事務所…………… 34
 (医)なかざわ歯科医院…………… 59
 中沢歯科医院…………… 64
 (株)中嶋文夫フラスティ・エイ設計事務所…………… 44
 (有)中日本測量…………… 66
 (株)中村…………… 52
 (株)中村建設…………… 60
 (株)中家製作所…………… 34
 七沢歯科医院…………… 58
 に…………… 115
 (株)西日本ギリオン…………… 55
 (株)西山組…………… 32
 西山塗装(株)…………… 57
 (株)日設工業…………… 61
 日東物産(株)…………… 60
 二宮眼科医院…………… 39
 201ゴルフ会…………… 65
 (株)日本旅行甲府支店…………… 54
 日本連合警備(株)…………… 46
 (株)ニュー平和…………… 28
 人形のあめみや…………… 46
 ぬ…………… 55
 (株)沼田鉄筋…………… 55
 ね…………… 56
 ネイルサロン ainc☆ain…………… 62
 (株)ネオスペース…………… 1
 ネットトヨタ甲斐(株)…………… 49
 ネットトヨタ山梨(株)…………… 49
 の…………… 49
 のざわ耳鼻咽喉科クリニック…………… 46
 (有)野中製材所…………… 56
 のんの歯科・矯正クリニック…………… 49
 は…………… 58
 BAR LOUNGE SOL…………… 37
 (株)ハギ・ボー…………… 58
 萩原会計事務所…………… 35
 (株)はくばく…………… 57
 畑歯科医院…………… 42
 (株)羽中田自動車工業…………… 54
 (株)ハッピーカンパニー…………… 42

花形歯科医院……………
 話し方教室スピーチ・スピーチ
 (株)馬場設計……………
 疾測量(株)……………
 (株)早野組……………
 ひ……………
 東日本電信電話(株)山梨支店……………
 樋口歯科医院……………
 (有)樋口土建……………
 ビジネスサポート行政書士事務所……………
 (有)日之出食品……………
 ひはらクリニック……………
 響が丘整形外科……………
 (株)ひまわりサポート……………
 ヒューコムエンジニアリング(株)……………
 ひらいしデンタルクリニック……………
 (株)平塚メデイカル……………
 平野石油(株)……………
 (有)ヒロ野草研究所……………
 ふ……………
 (株)ファルベ……………
 フォトスタジオ フォーレ……………
 (株)フォネット……………
 (株)深澤工務所……………
 富国生命保険相互会社……………
 富士急行(株)……………
 (株)富士グリーンテック……………
 (株)フジコー……………
 富士島建設(株)……………
 富士スクリーン印刷……………
 (株)富士測量……………
 (株)フジヒロ……………
 富士見歯科医院……………
 富士冷暖(株)……………
 富士幼稚園……………
 豊前医化(株)……………
 双葉クリニック……………
 フラワーマーケット……………
 フルーツパーク富士屋ホテル……………
 (株)ブレイン……………

68 67 62 61 49 68 42 47 63 55 55 47 60 44 33 50 67 36 49 56 52 28 55 55 18 47 34 41 63 66 38 64 15 5 64 33 60 68

(株)プロトコーポレーション……………
 へ……………
 Hair of Garden……………
 平成元年卒甲府一高アーチェリー部一同……………
 Velvets……………
 ほ……………
 (有)北条油店……………
 (株)保険ドリーム……………
 保坂歯科医院……………
 保坂造園……………
 保坂メデイカルクリニック……………
 細田眼科医院……………
 ほそだクリニック……………
 (株)ホットカンパニー……………
 (有)北宝エステート……………
 ホテル談露館……………
 ホテル平安……………
 ポニアロハフラスタジオ……………
 (税)ポライト田中会計……………
 Honda Cars 山梨国母バイパス店……………
 ま……………
 マコト医科精機(株)……………
 丸十山梨製パン(株)……………
 (株)丸政……………
 (有)美郷……………
 み……………
 社会保険労務士法人ミーツ……………
 御崎神社……………
 三井クリニック……………
 三井歯科医院……………
 三井住友海上火災保険(株)……………
 (株)三井住友銀行甲府法人営業部……………
 三塚歯科医院……………
 (株)緑が丘設備……………
 む……………
 (医)向山クリニック……………
 向山塗料(株)……………
 村松歯科医院……………
 め……………
 (株)メイキョー……………

45 60 58 45 30 66 37 58 59 45 59 43 65 35 59 37 63 29 57 39 65 66 55 61 45 57 66 57 58 52 59 65 67 50

も……………
 (株)望月組土木……………
 (医)望月耳鼻咽喉科……………
 や……………
 やぎ寝具店……………
 厄除地藏尊塩澤寺……………
 矢崎耳鼻咽喉科医院……………
 (株)山市成工……………
 (有)山縣塗装店……………
 山寺自動車工業(株)……………
 (有)ヤマナカ産業……………
 山梨OA機器販売(株)……………
 山梨ガーデン(株)……………
 山梨管財(株)……………
 山梨クラリオン(株)……………
 山梨建鉄(株)……………
 山梨県弁護士会……………
 山梨県木材製品流通センター……………
 山梨自動車産業(株)……………
 (株)山梨自販……………
 (株)山梨新報社……………
 山梨信用金庫……………
 山梨スズキ販売(株)……………
 山梨第一交通グループ……………
 山梨中央青果(株)……………
 山梨トヨタ自動車(株)……………
 (有)山梨ハウス工業……………
 (公財)山梨YMCA……………
 (株)山根園……………
 山本基礎工業(株)……………
 箭本外科整形外科医院……………
 ゆ……………
 (株)UG都市建築……………
 ユーティワイ企画……………
 湯澤工業(株)……………
 湯殿館……………
 (株)ユニセン……………
 湯村温泉病院……………

58 60 23 57 68 29 64 27 68 59 48 67 45 47 67 31 29 50 60 35 62 11 43 51 65 54 63 63 55 62 41 60 48 55 66 41

よ……………
 (有)山カッター……………
 ら……………
 (株)ラッキーアンドカンパニー……………
 り……………
 (医)立星会 甲府南ライフケアセンター……………
 (株)立地企画……………
 龍王産業(株)……………
 竜王レディースクリニック……………
 隆泉寺……………
 れ……………
 レストランニューポート……………
 レストランパーSAKI……………
 連合山梨……………
 (株)れんじやく……………
 ろ……………
 (株)ロード……………
 わ……………
 (株)YSK e-com……………
 (株)YCC……………
 若尾会計事務所……………
 若尾歯科医院……………
 若駒……………
 (有)和田電気商会……………
 渡辺整骨院……………

64 54 63 57 57 32 36 65 54 52 68 57 30 42 42 38 7 20 64

第一四三周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者御芳名

(順不同、敬称略)

今井整形外科医院

ホンダドリーム山梨

有限会社アルファケア

ミートプラザよだ

太田工業株式会社

三井建設工業株式会社

株式会社加藤塗装工業所

六曜館 成澤秀二

有限会社カワサキシヨップ山梨

すし・うまいもの処 伊津美

北口本宮富士浅間神社

富国生命甲府支社甲斐営業所

株式会社キタジマホーム

株式会社島田貴金属店

佐藤 薫

高原 寛司

永田駐車場

日星株式会社

羽黒工業株式会社

甲府一高同窓会ホームページ

<http://www.kofu-ichiko-dosokai.jp/>

甲府一高同窓会 検索



バナー広告協賛一覧

広告掲載期間：2023年5月～2024年4月

(株)タンザワHD

境川カントリー倶楽部

山日YBSグループ

(株)早野組

(医)恵信会

(株)やさしい手甲府

(株)常磐ホテル

(福)山梨檜の会

(株)山梨中央銀行

(株)古名屋

Slow life

【甲府一高同窓会ホームページのバナー広告掲載について】

第143周年甲府一高同窓会では、
2023年5月より2024年4月の一年間、
同窓生相互のコミュニティを図ることを目的として、
甲府中学・甲府一高同窓会による各企業・個人事業主・団体の
バナー広告を掲載しています。

第 143 周年甲府中学・甲府一高同窓会

学年協賛者氏名

渡	望	早	畠	末	清	【4組】	丸	北	藤	石	秋	【3組】	三	長	青	【2組】	芦	【1組】
邊	月	川	中	木	野	】	山	條	原	丸	山	】	嶋	田	柳	】	川	】
憲	美	光		さ	隆		理	竜	浩	穂			雄	正	昌		晋	
史	紀	行	勉	え	彦		子	彦	史	高	裕		二	貴	宏		吾	

深	小	【9組】	石	【8組】	山	矢	高	鷹	鈴	上	【7組】	三	水	末	一	石	【5組】
沢	林	】	川	】	本	崎	橋	野	木	田	】	井	谷	木	瀬	橋	】
ゆ	徹				祥	奈	り		紹	あい		民	友	仁	めぐ	明	
かり	三		純		歌	緒	え	誠	子	こ		子	美	美	み	美	

実行委員会

実行委員長

長谷部 集 (7組)

副実行委員長

武内 太郎 (平成19年卒・7組)

会場部会

柴田 雅央 (1組)
相川 隆 (1組)

チケット部会

清水 英知 (3組)
梶本 明美 (5組)
山本 浩司 (7組)
赤坂 潤二 (8組)

広告部会

石丸 穂高 (3組)
中川 祥歌 (7組)
齊藤 りえ (7組)
小澤 一幸 (9組)

記念誌部会

白井 礼史 (5組)
小澤 弘 (2組)
荻原 康司 (4組)

事務局

事務局長

高野芳太郎 (2組)

会計 (正)

中川 祥歌 (7組)

会計 (副)

渡辺ゆかり (9組)

実行委員

平成2年卒

芦川 晋吾 (1組) 大森 宏子 (6組)
石田 雅一 (1組) 島田 あや (6組)
八巻 貴弘 (1組) 下条 智子 (6組)
青柳 昌宏 (2組) 平野 政樹 (6組)
雨宮 慶 (2組) 大村 紹子 (7組)
長田 正貴 (2組) 鷹野 誠 (7組)
梶原 清文 (2組) 矢崎奈緒美 (7組)
秋山 裕 (3組) 村松 君彦 (8組)
清野 隆彦 (4組) 市川勇一朗 (9組)
畠中 勉 (4組) 小林 徹三 (9組)
藤田 吉丈 (4組) 高岡 豊 (9組)
古屋 章 (4組) 向山 明好 (9組)
室伏 美紀 (4組) 山本 和弘 (9組)
小池 友美 (5組)

平成19年卒

榎 紘志 (1組) 曾田 公仁 (6組)
滝澤 和哲 (4組) 吉原 良 (6組)
田中 弘樹 (4組) 田名網丈仁 (6組)
宮崎麻梨子 (5組) 内田 祥 (7組)

編集後記



コロナ禍にあって人も時間も足りず、記念誌制作のみならず、同窓会に係る全てに苦心した1年間でしたが、なんとか記念誌の完成や同窓会の開催にこぎつけることができました。

そのようななか、特集1のテーマをヴァンフォーレ甲府と決めさせていただいた後、あの奇跡の天皇杯優勝があり、結果として非常にタイムリーな記事となりましたし、特集2の中村学長についても、世界で活躍する一高OBの現在を、良いタイミングで皆様にお伝えすることができ、ほっと胸をなでおろしています。

また、取材の補助をしてくれたK. O. 君、Y. T. 君、素晴らしいレイアウトを作ってくれた印刷会社のY. M. さんには、非常に助けられました。

広告部会を中心に、皆で広告獲得に奔走したことも、いずれは良い思い出となってくれることでしょう。

最後に、記念誌及び同窓会にご協力いただいた全ての皆様に、深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

記念誌部会長 R. U.

歴史と文化を感じる街並を、

ぶらり歩いてみませんか。



「時の鐘」が目印

明治初期まで、200年以上住民に時刻を知らせていた「時の鐘」を再現。

甲府駅
北口
徒歩3分

甲州夢小路
駐車場1時間
無料

甲州夢小路

歴史と文化を感じる歩いて楽しめるまち

山梨のおいしさ、楽しさ、美しさと出逢う。

甲州夢小路

検索



〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1丁目1-25 TEL.055-298-6300 FAX.055-298-6301 (玉屋 甲州夢小路)

FOLLOW US
koshuyumekouji